

平成 28 年度
富良野市教育行政評価報告書

教育委員会事務事業点検・評価
学 校 第 三 者 評 価

平成 29 年 8 月

富 良 野 市 教 育 委 員 会

目 次

I	点検・評価の概要	
1、	教育委員会事務事業点検・評価	1
2、	学校評価	1
3、	点検・評価の手法及び公表	1
II	教育委員会の活動点検・評価	
1、	教育委員会の活動の一覧	5
2、	教育委員会議	10
3、	教育委員会活動の評価	11
III	平成 28 年度教育委員会事務事業点検・評価	
○	事務事業点検・評価結果一覧	13
○	教育委員会行政組織図	15
○	学校教育課所管事務事業点検評価シート	16
○	社会教育課所管事務事業点検評価シート	34
○	生涯学習センター所管事務事業点検評価シート	46
○	図書館所管事務事業点検評価シート	52
○	富良野学校給食センター所管事務事業点検評価シート	57
IV	平成 28 年度学校第三者評価	63
V	教育行政評価委員会の開催について	
1、	教育行政評価委員会	73
2、	教育行政評価委員会における意見	74
資料 1	富良野市教育行政評価委員会設置要綱	77
資料 2	教育行政評価委員名簿	78
資料 3	地方教育行政の組織及び運営に関する法律	78
資料 4	平成 28 年度 教育行政執行方針	79
資料 5	平成 28 年度 学校教育 重点事項	87

I 点検・評価の概要

1、教育委員会事務事業点検・評価

富良野市教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進と行政評価の透明性を図り市民への説明責任を果たすことを目的として、平成20年度分の事務事業から点検・評価を実施しています。

今年度も、平成28年度の教育に関する事務の管理及び執行状況として46事業に対する点検・評価を実施しました。

2、学校評価

学校評価については、平成19年6月に学校教育法、同年10月に学校教育法施行規則の一部改正が行われ、学校自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者（市教育委員会）への報告が義務化されました。これを受け、富良野市教育委員会では平成19年度から試行的に学校評価に取り組み、平成20年度から本格実施をしています。

学校第三者評価については、平成20年に文部科学省より示された「学校評価ガイドライン」に基づき、当事者や関係者ではなく「学識経験のある知見を有する第三者」による学校評価を行うため、平成28年度評価においては評価項目16項目、25観点について教育行政評価委員会において実施しました。

3、点検・評価の手法及び公表

1) 教育委員会事務事業点検・評価報告

平成28年度に実施した教育委員会の主な事務事業の実績を「事務事業点検評価シート」にまとめ、それぞれの目標に照らし合わせた成果を基に必要性・有効性・効果性などを各分野別において点検し、今後の課題や改善策をまとめ、担当課により次の基準で達成度・効果度の評価を行い、その結果を教育行政評価委員会において説明し、各委員より意見をいただきました。

①達成度の評価

事業の進捗状況として、当該年度において事業がどの程度まで実施できたのか

を評価する。

<評価基準>

- A：実践が進み成果を上げている。
- B：実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。
- C：実践に努めているが、達成度は低いと判断される。
- D：ほとんど（全く）実践されず、努力を要する。

②効果度の評価

事業の実践により、当該年度に得られた効果がどの程度なのかを評価する。

<評価基準>

- A：期待どおりの効果が得られたと判断される。
- B：やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。
- C：期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。
- D：期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される。

2) 学校第三者評価

学校第三者評価は、学校が自ら学校運営を改善し、その教育水準の向上を図るとともに、保護者や地域住民等の理解と参画を得て学校づくりを進めていくため、自己評価や学校関係者評価に加えて実施するもので、単に学校に点数を付けたり、格付けしたり、監視したり、教諭を評価するための仕組みではなく、より良い「開かれた学校」をめざして行っています。

評価の方法は、「学校評価ガイドライン」で示されている評価項目を重点化し、平成23年度に富良野市学校教育指導委員会より答申のあった16項目25観点について各学校で自己評価をし、これを受けて、教育行政評価委員が「学校自己評価」や「学校関係者評価」を参考に、学校訪問並びに学校関係者との意見交換を実施いたしました。

3) 公表

公表は議会、市広報紙・市ホームページに掲載するとともに、市の主な公共施設でも報告書を閲覧できるようにいたします。

4) 評価結果

平成 28 年度の事務事業点検・評価の結果について、評価基準 A～D の 4 段階で集計を行いました。

◎事務事業評価

第 1 表 事務事業評価【達成度】

	A	B	C	D	計
件数	27	19	0	0	46 事業
構成比 (%)	58.7	41.3	0	0	100%

評価基準 A : 実践が進み成果を上げている。

B : 実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。

C : 実践に努めているが、達成度は低いと判断される。

D : ほとんど (全く) 実践されず、努力を要する。

第 2 表 事務事業評価【効果度】

	A	B	C	D	計
件数	37	9	0	0	46 事業
構成比 (%)	80.4	19.6	0	0	100%

評価基準 A : 期待どおりの効果が得られたと判断される。

B : やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。

C : 期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。

D : 期待した効果がほとんど (全く) 得られなかったと判断される。



第1回評価委員会議
(平成29年5月30日)

布部小中学校訪問
(平成29年7月4日)



富良野小学校訪問
(平成29年7月4日)

校長会会長・副会長との意見交換
(平成29年7月26日)



教育委員会の活動点検・評価

平成28年度の教育委員会の活動点検・評価については、「教育委員会会議」「学校訪問」などの項目に分け、教育委員会独自による点検を行いました。

1、教育委員会の活動の一覧

教育委員会会議については、偶数月に定例会を、必要に応じ臨時会を開催しました。また、毎月1回教育委員協議会を開催し、教育に関する様々な案件について協議しました。定例会については、開催予定や傍聴、報道機関への案内をするとともに、市ホームページに会議の内容等を掲載しています。

以下、平成28年度の会議開催状況等を示し、それぞれの活動内容について報告します。

1) 平成28年度教育委員会会議実施状況

(1) 開催回数

定例会：6回（原則として偶数月）

臨時会：6回（随時）

委員協議会：12回（原則として毎月）

(2) 付議件数

内 容	件 数
条例、規則等に関する事	26
議会の議決を経るべき議案に関する事	3
人事に関する事	1
委員の委嘱等に関する事	15
その他	12
計	57

2) 教育委員会会議の開催状況

回	開催日	開催内容
第2回定例会	4月20日	(1) 富良野市育英基金育英生について (2) 富良野市教育委員会の所管に係る富良野市職員の退職管理に関する条例施行規則の制定について (3) 富良野市教育行政評価委員の委嘱について (4) 富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について (5) 富良野市立学校施設利用に係る学校開放主事及び学校開放管理指導員の委嘱について
第4回臨時会	5月23日	(1) 富良野市学校教育指導委員の委嘱について (2) 富良野市いじめ問題審議会委員の委嘱について (3) 富良野市社会教育委員の委嘱について (4) 富良野市青少年補導センター補導員の委嘱について (5) 富良野市学社融合推進委員の委嘱について
第5回臨時会	6月15日	(1) 富良野市教育委員会委員長選挙について (2) 富良野市教育委員会委員長職務代理者の指定について

II 教育委員会の活動状況

第3回 定例会	6月23日	(1) 富良野市教育委員会非常勤嘱託職員取扱規則の一部改正について (2) 富良野市特別支援連携協議会設置規則の全部改正について (3) 富良野市社会教育委員の委嘱について
第4回 定例会	8月24日	(1) 平成29年度使用する教科用図書の採択について (2) 平成28年度富良野市教育行政評価報告について
第6回 臨時会	9月27日	(1) 平成28年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について (2) 平成28年度就学時健康診断員の委嘱について
第5回 定例会	10月28日	(1) 平成28年度全国学力・学習状況調査結果の公表について (2) 富良野市いじめ問題審議会委員の委嘱について (3) 富良野市青少年表章規則に基づく平成28年度表章者について
第6回 定例会	12月21日	(1) 平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について
第1回 臨時会	1月13日	(1) 富良野市学校教育指導委員会設置規則の制定について (2) 富良野市立学校管理規則の一部を改正について
第1回 定例会	2月14日	(1) 平成29年度富良野市教育行政執行方針について (2) 富良野市コミュニティ・スクール協議会設置規則の制定について (3) 平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の公表について (4) 市長の権限に属する事務の委任及び補助執行に関する協議について
第2回 臨時会	3月9日	(1) 教職員人事の内申について
第3回 臨時会	3月29日	(1) 富良野市教育委員会事務局組織規則の一部改正等について (2) 富良野市教育委員会非常勤嘱託職員取扱規則の一部改正について (3) 富良野市立学校管理規則の一部改正について (4) 富良野市立学校職員服務規程の一部改正について (5) 富良野市学童保育センター設置条例施行規則の制定について (6) 富良野市児童館使用規則の制定について (7) 富良野市こども通園センター設置条例施行規則の制定について (8) 富良野市児童福祉法施行細則の制定について (9) 富良野市子ども・子育て支援法施行細則の制定について (10) 富良野市保育の必要性の認定基準に関する規則の制定について (11) 富良野市立保育所設置条例施行規則の制定について (12) 富良野市立へき地保育所設置条例施行規則の制定について (13) 富良野市保育所災害補償規則の制定について (14) 富良野市児童扶養手当障害認定医設置規則の制定について (15) 富良野市こども通園センター運営規程の制定について (16) 富良野市立保育所運営規程の制定について (17) 富良野市立へき地保育所運営規程の制定について (18) 富良野市立保育所職員の勤務時間等に関する規程の制定について (19) 富良野市立へき地保育所職員の勤務時間等に関する規程の制定について (20) 富良野市児童扶養手当事務取扱規程の制定について (21) コミュニティ・スクールの指定について (22) コミュニティ・スクール協議会委員の任命について

		(23) 平成 29 年度富良野市社会教育推進計画の策定について (24) 富良野市スクールカウンセラーの委嘱について (25) 富良野市子どもと親の相談員の委嘱について (26) 平成 29 年度富良野市学校医等の委嘱について (27) 平成 29 年度認可保育所における嘱託医の委嘱について
--	--	---

3) 教育委員会委員協議会の開催状況

回	開催日	開催内容
第4回協議会	4月20日	協議(1) 富良野市育英基金育英生について 協議(2) 富良野市教育委員会の所管に係る富良野市職員の退職管理に関する条例施行規則の制定について 協議(3) 富良野市教育行政評価委員の委嘱について 協議(4) 富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について 協議(5) 富良野市立学校施設利用に係る学校開放主事及び学校開放管理指導員の委嘱について 報告(1) 富良野市通学路交通安全プログラムの策定について 報告(2) 平成 28 年度学校編成及び学校職員名簿について 報告(3) 平成 28 年度区域外通学許可状況について 報告(4) 「2016 年版図書館要覧」の発行について 報告(5) 平成 28 年度富良野市小中学校の主な行事予定について 報告(6) 運動会（体育祭）の教育委員訪問について
第5回協議会	5月23日	協議(1) 富良野市学校教育指導委員の委嘱について 協議(2) 富良野市いじめ問題審議会委員の委嘱について 協議(3) 富良野市社会教育委員の委嘱について 協議(4) 富良野市青少年補導センター補導員の委嘱について 協議(5) 富良野市学社融合推進委員の委嘱について 報告(1) 「2016 こども図書館まつり」実績報告について
第6回協議会	6月23日	協議(1) 富良野市教育員会非常勤嘱託職員取扱規則の一部改正について 協議(2) 富良野市特別支援連携協議会設置規則の全部改正について 協議(3) 富良野市社会教育委員の委嘱について 報告(1) 富良野市議会第2回定例会について 報告(2) 富良野地区中体連について 報告(3) 富良野市第3子以降多子世帯就学助成金の支給について
第7回協議会	7月15日	報告(1) いじめアンケート調査の結果について 報告(2) 富良野地区中体連・上川代表決定戦の結果について 報告(3) コミュニティ・スクールについて
第8回協議会	8月24日	協議(1) 平成 29 年度使用する教科用図書の採択について 協議(2) 平成 27 年度富良野市教育行政評価報告について 報告(1) 新外国語指導助手の着任について 報告(2) 鳥沼小学校屋内運動場屋根外壁塗装工事について 報告(3) 西中学校グラウンド整備事業について
第9回協議会	9月27日	協議(1) 平成 28 年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について 協議(2) 平成 28 年度就学時健康診断員の委嘱について 報告(1) 教職員の飲酒運転に係る再発防止の徹底について 報告(2) 「市長と語ろう！地域懇談会」の開催について

II 教育委員会の活動状況

第10回協議会	10月28日	協議(1)平成28年度全国学力・学習状況調査結果の公表について 協議(2)富良野市いじめ問題審議会委員の委嘱について 協議(3)富良野市青少年表彰規則に基づく平成28年度表彰者について 報告(4)西中学校の落書き事件について
第11回協議会	11月23日	報告(1)富良野市いじめ防止メッセージコンクールの審査結果について 報告(2)教育委員会所管施設の煙突用断熱材に係る対応について
第12回協議会	12月21日	協議(1)平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について 報告(1)富良野市議会第4回定例会について
第1回協議会	1月13日	協議(1)富良野市学校教育指導委員会設置規則の制定について 協議(2)富良野市立学校管理規則の一部を改正について
第2回協議会	2月14日	協議(1)平成29年富良野市教育行政執行方針について 協議(2)富良野市コミュニティ・スクール協議会設置規則の制定について 協議(3)平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の公表について 協議(4)市長の権限に属する事務の委任及び補助執行に関する協議について 報告(1)イングリッシュキャンプ実施報告について 報告(2)市立富良野図書館開館時間延長及び開館日数増の試行に係る中間結果について 報告(3)いじめ問題審議会について 報告(4)平成29年度主な教育委員会予算について
第3回協議会	3月29日	協議(1)富良野市教育委員会事務局組織規則の一部改正等について 協議(2)富良野市教育委員会非常勤嘱託職員取扱規則の一部改正について 協議(3)富良野市立学校管理規則の一部改正について 協議(4)富良野市立学校職員服務規程の一部改正について 協議(5)富良野市学童保育センター設置条例施行規則の制定について 協議(6)富良野市児童館使用規則の制定について 協議(7)富良野市こども通園センター設置条例施行規則の制定について 協議(8)富良野市児童福祉法施行細則の制定について 協議(9)富良野市子ども・子育て支援法施行細則の制定について 協議(10)富良野市保育の必要性の認定基準に関する規則の制定について 協議(11)富良野市立保育所設置条例施行規則の制定について 協議(12)富良野市立へき地保育所設置条例施行規則の制定について 協議(13)富良野市保育所災害補償規則の制定について 協議(14)富良野市児童扶養手当障害認定医設置規則の制定について 協議(15)富良野市こども通園センター運営規程の制定について 協議(16)富良野市立保育所運営規程の制定について 協議(17)富良野市立へき地保育所運営規程の制定について 協議(18)富良野市立保育所職員の勤務時間等に関する規程の制定について 協議(19)富良野市立へき地保育所職員の勤務時間等に関する規程の制定について 協議(20)富良野市児童扶養手当事務取扱規程の制定について 協議(21)コミュニティ・スクールの指定について 協議(22)コミュニティ・スクール協議会委員の任命について 協議(23)平成29年度富良野市社会教育推進計画の策定について 協議(24)富良野市スクールカウンセラーの委嘱について 協議(25)富良野市子どもと親の相談員の委嘱について

	協議(26)平成29年度富良野市学校医等の委嘱について 協議(27)平成29年度認可保育所における嘱託医の委嘱について 報告(1)第1回富良野市議会定例会について 報告(2)平成29年度区域外通学について
--	---

4) 学校訪問・各種行事・会議・研修会等への参加

実施月日	行 事 内 容	開催場所
4月4日	・教職員着任式	文化会館
4月8日	・着任校長、教頭歓迎会	ワインハウス
4月20日	・平成27年度上川管内教育委員会連合会総会及び第1回委員研修会	上川合同庁舎
5月23日	・教育委員学校訪問(扇山小、東小、山部中、布部小中学校)	小・中学校
5月25日	・平成28年度少年の主張大会	文化会館
5月下旬～	・各小中学校運動会(5月下旬～6月上旬)	各小中学校
6月9日	・富良野市総合教育会議	市役所
6月13日	・平成28年第2回富良野市議会定例会開会	市役所議事堂
6月15日	・富良野市戦公没者追悼式	朝日ヶ丘公園
6月15日	・平成28年度富良野市音楽大行進	市御旗行進
6月23日	・教育委員学校訪問(樹海中、山部小、富良野東中、富良野西中)	各小中学校
7月4日	・社会を明るくする運動街頭パレード	フラノマルシェ2
7月15日	・教育委員学校訪問(樹海小、麓郷小中、布礼別小、鳥沼小、富良野小)	各小中学校
7月26～27日	・北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会	紋別市
9月6日	・平成28年第3回富良野市議会定例会開会	市役所議事堂
9月中旬～	・各小中学校学芸会、学校祭(9月中旬～11月上旬)	各小中学校
9月28日	・富良野市内小中学校音楽発表会	文化会館
10月5日	・コミュニティ・スクール研修会	文化会館
10月31日 ～11月1日	・上川管内教育委員会連合会研修会	美瑛町
11月3日	・富良野市条列表彰式	市役所
11月3日	・富良野市文化団体協議会表彰式	文化会館
11月23日	・平成28年度富良野市青少年表彰式	文化会館
11月30日	・第10回富良野市子ども未来づくりフォーラム	文化会館
12月5日	・平成28年第4回富良野市議会定例会	市役所議事堂

II 教育委員会の活動状況

1月6日	・平成29年富良野市新年交礼会	文化会館
1月8日	・平成29年富良野市成人式	文化会館
1月11日	・平成29年山部地区新年交礼会	山部福祉センター
1月11日	・平成29年東山地区新年交礼会	東山公民館
1月13日	・平成29年富良野市新春教育懇話会	ハイランドふらの
1月20日	・平成28年度富良野市PTA連合会新年懇親会	ハイランドふらの
2月27日	・平成28年第1回富良野市議会定例会開会	市役所議事堂
3月10日	・富良野東中学校開校70周年記念式典	富良野東中
3月中旬	・各小中学校卒業式	各小中学校
3月27日	・校長、教頭惜別式	ハイランドふらの

2、教育委員会議

次に掲げる事項が、教育委員会議において議決が必要な事項で、それ以外の権限に属する事務は教育長に委任されている。

- (1) 教育行政の運営に関する一般方針を決定すること。
- (2) 学校その他教育機関の設置及び廃止すること。
- (3) 教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること。
- (4) 請願、陳情等の処理に関すること。
- (5) 1件300万円以上の教育財産の取得及び処分を市長に申し出ること。
- (6) 1件300万円以上の工事の計画を策定すること。
- (7) 学校その他教育機関の敷地の選定及び変更を決定すること。
- (8) 道費負担教職員の懲戒及び道費負担教職員たる校長、教頭の任免その他の進退について内申すること。
- (9) 道費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。
- (10) 人事の一般方針を定め及び懲戒を行うこと。
- (11) 教育部長、課長、館長、主幹、館長の任免を行うこと。
- (12) 法令、条例、規則に定める委員の任命又は委嘱すること。
- (13) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について市長に意見を申し出ること。
- (14) 通学区域を設定し、又はこれを変更すること。
- (15) 富良野市育英基金条例による貸与、若しくは給付対象者を決定すること。
- (16) 校長、教頭、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
- (17) 長の補助機関たる職員、若しくは長の管理に属する行政機関の長に教育委員会の権限に属する事務の一部を委任し、又は補助執行させること。
- (18) 市文化財を指定し、又は指定を解除すること。
- (19) 児童生徒の出席停止に関すること。

3、教育委員会議の評価

1) 議事について

条例や規則の改正、各種委員の委嘱等、事務的な手続きによるもの以外については、各委員の高い識見と課題解決に向けた積極的な発言が多くありました。また、各委員への報告や事前相談・協議、情報提供等により、円滑な会議運営がなされました。

なお、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が平成 27 年 4 月 1 日から施行されましたが、執行機関としての教育委員会の位置付は維持されており、公立小中学校の管理、教職員の人事その他の教育委員会の所掌に係る事務は、引き続き教育委員会の合議に基づいて執行されることとなっております。このため、教育の政治的中立性、継続性・安定性の確保、教育行政への多様な民意の反映、教育長及び事務局が執行する事務の評価・監視という教育委員会の役割の重要性に変更はありません。

2) 学校訪問について

教育委員と事務局職員により市内 15 校の小中学校を全て訪問し、校長・教頭からの説明及び児童生徒の学習の様子を見学し、子ども達の学びの様子や学校の概要、運営方針、施設、教育環境、授業等さまざまな視点から、学校現場の実態把握と総合的な観点から学校の運営状況についての把握に努めています。

3) 各種市内行事、会議、研修会等への参加

各学校の運動会・体育祭・学芸会・学校祭・卒業式などの学校行事には、各委員が教育委員会を代表して出席をし、教育委員会が主管する教職員着任式、音楽大行進、青少年表彰式、成人式等の行事や式、会議に出席しました。さらに、全道、管内、富良野沿線の教育委員研修会にも積極的に参加し、教育に関する情報収集や教育行政の諸課題についての理解を深め、地域の実情や特性に応じた特色ある教育行政の推進に向けて研鑽を図りました。

4) 広報活動

定例会・臨時会の審議内容については、市のホームページで公開しています。教育委員会や学校で取り組んでいる状況について、市民の一層の理解と協力を得るために、今後も引き続き広報紙やホームページなどをはじめ、新聞・ラジオ等のメディアの活用を進め、開かれた教育行政、効果的な教育行政の推進を図りました。

◎事務事業点検・評価一覧

所管課	評価項目		細項目		28年度評価		備考
					達成度	効果度	
学校教育課	1	市立小中学校配置計画	1	・適正規模適正配置に関する指針	A	A	
	2	全国学力・学習状況調査	2	・全国学力・学習状況調査	A	A	
	3	全国体力・運動能力等調査	3	・全国体力・運動能力、運動習慣等調査	A	A	
	4	心の教育	4	・適応指導教室事業	A	A	
			5	・スクールカウンセラー活用事業	B	A	
			6	・子どもと親の相談員活用事業	B	A	
			7	・心に響く道徳教育事業	A	A	
	5	いじめZERO推進	8	・富良野市いじめ問題対策連絡協議会	A	B	
	6	特別支援教育	9	・特別支援教育支援員配置事業	A	A	
			10	・特別支援連携協議会推進事業	B	A	
	7	キャリア教育	11	・富良野市キャリア教育推進会議	B	A	
	8	食育	12	・食育推進事業	A	A	
	9	情報教育	13	・ICT利活用事業	B	A	
	10	国際理解教育	14	・外国語指導助手招致事業	A	A	
11	健康診断事業	15	・児童生徒、教職員健康診断実施事業	A	A		
12	小中学校歯科衛生	16	・フッ化物洗口事業	A	A		
13	高校教育	17	・高校教育の推進	A	A		
14	コミュニケーション教育	18	・学校教育コミュニケーション教育推進事業	A	A	新規評価項目	
社会教育課	15	家庭教育	19	・家庭教育支援事業	B	A	
			20	・親と子のふれあい事業	B	A	
	16	青少年教育	21	・子ども未来づくり事業（未来づくりフォーラム）	A	A	
			22	・ふらのまちづくり未来ラボ推進事業	B	A	新規評価項目
			23	・子ども会育成事業	B	A	
			24	・青少年表彰事業	B	B	
			25	・青少年補導センター運営事業	B	A	
			26	・放課後子ども教室推進事業	B	A	
			27	・学社融合推進事業	A	A	
	28	・青年活動活性化事業（青年塾）	B	B			
17	成人教育	29	・ふらの市民講座事業	B	B		
18	高齢者教育	30	・ことぶき大学運営事業	B	B		

Ⅲ 平成 28 年度教育委員会事務事業点検・評価

所管課	評価項目		細項目	27年度評価		備考
				達成度	効果度	
生涯学習センター	19	文化財保護	31・文化財保護啓蒙・普及活動	B	B	
			32・郷土学習資料発行事業	A	A	新規評価項目
	20	博物館	33・博物館活動推進事業	A	A	
			34・自然体験・環境学習事業	A	A	
	21	文化振興	35・山部菊の会補助金	B	B	
22	森林環境教育	36・森林学習プログラム推進事業	B	B		
図書館	23	図書館	37・図書館運営管理事業	A	A	
			38・図書資料整備事業	A	A	
			39・読書活動推進事業	A	A	
			40・子どもの読書推進事業	A	A	
			41・図書館授乳室整備事業	A	A	新規評価項目
富良野学校給食センター	24	富良野学校給食センター	42・安全安心な学校給食の提供	A	A	
			43・「富良野ふるさと給食」の実施	A	A	
			44・食に関する指導の推進	A	A	
			45・学校給食費の徴収	A	A	
			46・食物アレルギーの対応	B	B	
評価結果：集計			A（実践が進み成果を上げている）	27	37	
			B（実践が進んでいる）	19	9	
			C（実践に努めている）	0	0	
			D（努力を要する）	0	0	
			計	46	46	

①達成度の評価基準

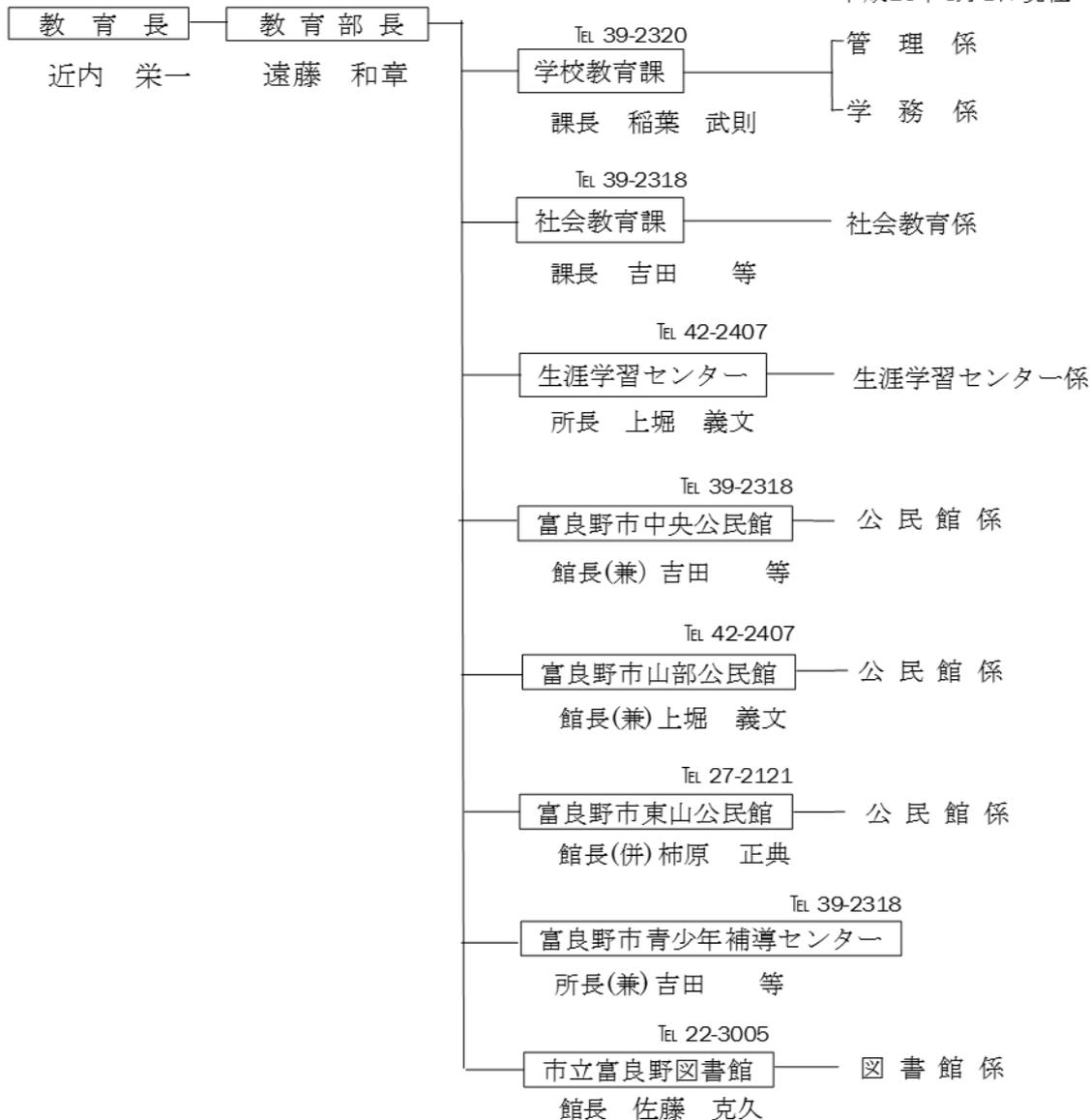
- A：実践が進み成果を上げている。
- B：実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。
- C：実践に努めているが、達成度は低いと判断される。
- D：ほとんど（全く）実践されず、努力を要する。

②効果度の評価基準

- A：期待どおりの効果が得られたと判断される。
- B：やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。
- C：期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。
- D：期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される。

富良野市教育委員会行政組織図

平成28年4月1日現在



富良野広域連合教育委員会行政組織図

平成28年4月1日現在



Ⅲ 平成 28 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	市立小中学校配置計画					担当課	学校教育課				
事務事業名	適正規模適正配置に関する指針										
事業の目的・概要	少子化による児童生徒数の減少が進む中、子ども達にとって教育の機会均等の観点から十分な教育効果が得られ、又、公平性を保ちながら次代を担う子ども達が常に良好な教育環境を確保していくための方向性を示す。	事業年度	開始		終了						
			初回平成17～19年度 平成21年度		継続						
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28				
			-	-	-	-	-				
前年度の課題	○今後の学校の在り方については、単Pや地域との意見交換を重ねながら方向性を協議する必要がある。										
当該年度の目標	○少子化による児童生徒数の減少から、学校の配置計画や規模の適正化などが課題となり、集団活動を通して社会性、協調性、自立性などを培う教育環境を考慮しながら方向性を整える。										
事業の実施状況	<p>○平成22年度に市PTA連合会より提案された「今後の市内小中学校における教育環境整備の在り方」を受け、市の財政状況を見据えながら市内6校（富小・東小・東中・山部中・樹海小・樹海中）を順次計画的に検討、整備することとした。</p> <p>○山部中学校及び樹海中学校以外は、平成26年度までに耐震化工事を完了し、両校については、市教育委員会より各地区教育懇話会を通じ、今後の児童生徒数の推移を示しながら、学校の在り方を協議していただいている。</p> <p>○協議の結果に基づいて、今後の教育環境をどう確保していくかの方向性をPTA・地域等の意向を十分に踏まえ検討する。</p> <p>○平成28年度は、適正規模適正配置に関する指針の見直しを実施した。（素案の作成）</p>										
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証				
	達成度	A	A	A	A	A	○施設整備については、市PTA連合会要望に沿った整備が進んでいる。				
	効果度	A	A	A	A	A					
今後の取り組み	今後の学校の在り方については、単P（保護者）や地域との意見交換を重ね、方向性を協議する必要がある。										
	<p style="text-align: center;">改 善 策</p> <p>○文部科学省から平成27年1月に示された、公立小中学校の統廃合についての手引の改訂版を参考に、今後の児童生徒数の推移やPTA、地域の意向を十分に踏まえ、「市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する改正指針（素案）」を、各保護者等とも意見交換を行っていく。</p> <p>○協議中の地区の考えについても意見を把握し、尊重しながら改訂指針を策定する。</p>										

Ⅲ 平成 28 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	全国学力・学習状況調査	担当課	学校教育課					
事務事業名	全国学力・学習状況調査							
事業の目的・概要	義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、その学習改善を図る。	事業年度	開始		終了			
			平成19年度		継続			
事業の目的・概要	義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、その学習改善を図る。	事業費(決算) (単位:千円)	H25	H25	H26	H27	H28	
			国費	国費	国費	国費	国費	
前年度の課題	<p>○確かな学力向上をめざして、学習改善プランの実施とともに、授業改善及び授業公開と家庭学習を含め望ましい生活習慣の定着を図る必要がある。</p> <p>○富良野市PTA連合会・富良野市校長会・富良野市教育委員会の3者で構成する富良野市学力向上推進プロジェクトが調査結果を分析し作成した「富良野市における調査結果の概要」を基に取組を行う。</p>							
当該年度の目標	<p>○児童生徒の学力の向上と状況調査</p> <p>○質問紙調査による児童生徒の学習習慣の把握</p>							
事業の実施状況	<p>○実施日 平成28年4月19日(火)</p> <p>○調査対象及び調査された人数 小学6年生：183名 中学3年生：200名</p> <p>○実施教科 国語、算数・数学</p> <p>【28年度調査結果の概要】 学力調査の結果は、小学校では、国語A・国語Bで全国平均正答率を上回り、算数Aは、全国平均正答率と同等、算数Bは全国平均正答率と同値の結果であった。 中学校では、国語A、数学A・数学Bで高い正答率となり全国平均正答率を上回り、国語Bでは、全国平均正答率と同等の結果であった。 なお、現中学3年生が、小学6年生時では全ての科目で全国平均正答率を下回っていたが、今回の調査では前述のとおり全ての科目で「全国平均正答率を上回る」あるいは「同等値」となっている。</p> <p>(参照)A～「知識」に関する問題、B～「活用」に関する問題 (両教科共通)</p>							
評価			H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	A	
今後の取組み	今後の課題							
	<p>○確かな学力向上をめざして、学習改善プランの実施とともに、授業改善及び授業公開と家庭学習を含め望ましい生活習慣の定着を図る必要がある。</p> <p>○富良野市PTA連合会・富良野市校長会・富良野市教育委員会の3者で構成する富良野市学力向上推進プロジェクトが調査結果を分析し作成した「富良野市における調査結果の概要」を基に取組を行う。</p>							
今後の取組み	改善策							
	<p>○学校全体で学力向上に向けた取組を組織的に推進するため「学力向上推進委員会」などを組織し子どもたちの状況をきめ細かく把握し、指導の改善充実を図る。</p> <p>○学校での学習効果を高めるため、児童生徒の家庭学習の状況を的確に把握し、児童生徒・保護者に対する適切な助言や学習内容の確実な定着や家庭での学習機会を確保するための課題等を設定する。</p>							

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	担当課	学校教育課				
事務事業名	全国体力・運動能力、運動習慣等調査						
事業の目的・概要	子どもの体力が低下している状況を踏まえて、国が全国的な子どもの体力状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検討し、その改善を図ることを目的とする。	事業年度	開始		終了		
			平成19年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			国費	国費	国費	国費	国費
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○各学校でも独自に体力調査をおこなっており継続した取り組みが行われていることから、引き続き体力向上の取組みを継続する必要がある。 ○調査結果のデータを把握・分析し、児童生徒一人ひとりの体力や運動習慣等の改善の取組を進める必要がある。 						
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の体力の向上と現状調査 ○質問紙調査による児童生徒の運動習慣の把握 						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○平成28年度は、4月から7月末の間に調査を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・実施対象 小学校5年生：172名、中学校2年生：219名 ・実施種目 小学生：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ 中学生：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ <p>【28年度調結果の概要】 体力合計点では、全ての調査対象において全道平均を上回り、小学校男子・中学校男子は、全国平均も上回っている。 児童・生徒への質問紙調査では、「運動が好き」と回答した割合が全ての調査対象において全国・全道平均を上回ったが、「体力に自信がある」と回答した割合では小学校男子・中学校男子は全国・全道平均を上回ったものの、小学校女子・中学校女子は全国・全道平均を下回っている。</p>						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取組み	今後の課題						
	<ul style="list-style-type: none"> ○各学校でも独自に全学年で体力調査を実施しており継続とデータの蓄積の取組が行われており、引き続き体力向上の取組みを継続する必要がある。 ○調査結果のデータを把握・分析し、児童生徒一人ひとりの体力や運動習慣等の改善の取組を進める必要がある。 ○家庭からの積極的な運動のすすめや徒歩での登校など、日常的に運動に接する機会を持つ必要がある。 						
今後の取組み	改善策						
	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校では少年団活動、中学校での部活動への積極的な加入を促し、家庭・学校・地域・スポーツ関係団体と連携しながら「知・徳・体」の調和のとれた成長を促進する。 ○「早寝・早起き・朝ご飯、みんなそろって晩ごはん」運動など、規則正しい生活習慣と食習慣による体力向上を推進する。 ○引き続き、新体力テストを全学年での実施をめざすとともに、児童生徒一人ひとりの数値目標を設定するなど、意欲的な体力向上を図る。 						

Ⅲ 平成 28 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	適応指導教室事業						
事業の目的・概要	<p>○不登校及びその傾向にある市内の児童生徒に対し保護者、学校、関係機関等との連携のもと学校への復帰訓練と基本的な生活習慣の改善や豊かな情操・社会性の育成を図る。</p> <p>○不登校児童への支援及び不登校児童生徒を抱える家庭を支援するとともに、教育活動の充実を図る。</p> <p>○ひきこもりや不登校問題の解決をめざし、家庭や学校関係機関との連携強化に努める。</p> <p>☆焦らず、あきらめず、コミュニケーションを基本に推進</p>	事業年度	開始	終了			
			平成15年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
	2,592	2,592	2,592	2,592	2,592		
前年度の課題	○不登校の児童生徒に対し、在籍校との連携を図りながら適応指導教室に通級してもらい、学校へ復帰を目指すとともに、適応指導教室の意義を学校及び保護者に広く周知する必要がある。						
当該年度の目標	○不登校及びその傾向にある市内の児童生徒に対し、学校への復帰訓練。						
事業の実施状況	<p>○不登校児童への支援・指導内容の充実。</p> <p>○不登校児童生徒を抱える家庭を支援するとともに、教育活動の充実を図った。</p> <p>○ひきこもりや不登校問題の解決をめざし、家庭や学校・関係機関との連携強化に努めた。</p> <p>○平成24年度からより専門性を持った個々の課題に対応できる教員免許をもった人材（社会福祉士・認定心理士等）を指導員として採用し、きめ細やかな支援ができる体制を整えている。</p> <p>○中学3年生を対象とした受験対策特別授業を実施し、高校受験に対する支援を行い、全員が高校に進学する。</p> <p>○在籍者数 中学2年生 5名 中学3年生 2名</p>						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	<p>達成度・効果度の検証</p> <p>○一人ひとりの実態に即した教育相談・学校支援や多様な体験活動、「ひきこもり」の解消、学校復帰、社会的な自立心の育成のため、生活意欲を培うとともに、基礎的な学力の定着・基本的な生活習慣の改善・豊かな情操・社会性を育む指導に努めている。</p> <p>○スクールカウンセラーと連携を図りながら、保護者に対する支援や相談に重点を置いている。</p>
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○不登校の児童生徒に対し、在籍校との連携を図りながら適応指導教室に通級してもらい、学校への復帰を目指すとともに、適応指導教室の意義を学校及び保護者に広く周知する必要がある。						
	改 善 策						
	<p>○周知の手段として「適応指導教室」での取り組みなどを諸会議で報告し、活動内容のチラシなどを配布するとともに、気軽に教室を訪問してもらえるよう、学校等への周知に努める。</p> <p>○適応指導教室に通級している児童生徒が抱える問題の多くは、家庭などにも原因が起因していることから、児童生徒及び家庭に対する一貫した支援が必要であり、引き続きスクールカウンセラー・家庭・学校・関係機関・家庭児童相談室との連携を図り取り組んでいく。</p>						

Ⅲ 平成 28 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	スクールカウンセラー活用事業						
事業の目的・概要	生徒の不登校や問題行動等の対応に当たっては学校におけるカウンセリング等の機能充実を図ることが重要な課題となっている。このため、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有する「スクールカウンセラー」を配置し、生徒への心のケアを図る。 ・生徒へのカウンセリング ・教職者、保護者に対する助言・援助	事業年度	開始	終了			
			平成17年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
道費	道費 一部市費 268		道費 一部市費 83	道費	道費 一部市費 139		
前年度の課題	○各学校では教育相談の充実を図っているが、思春期の子どもたちの心の成長過程における悩みや不安を抱えることが多く、相談件数が増加傾向にある。引き続き、教職員や保護者に対し、適切な助言やきめ細やかな支援が必要である。 ○生徒や保護者にスクールカウンセラーについての理解を求めることが必要である。						
当該年度の目標	○生徒の不登校、いじめへの対応と心のケア。						
事業の実施状況	○生徒へのカウンセリング 延 115 件 ○教職員に対する助言・援助 延 75 件 ○保護者に対する助言・援助 延 44 件 ○H28年度実績 3校(富良野東中学校、富良野西中学校、山部中学校) (道費・市費) 日数・時間 延べ86日 246時間 来談者 延べ234名 ※生徒、教員、保護者						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証 ○カウンセリングにより不登校生徒の登校日数が増えているケースがある。また、学校で生徒・保護者・先生などがカウンセリングを受けたことにより、生徒の心のケア、保護者との相談業務の成果が上がっている。 ○適応指導教室との連携も図られており、登校に繋がっているケースもある。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○各学校では教育相談の充実を図っているが、思春期の子どもたちが心の成長過程における悩みや不安を抱えることが多く、相談内容も多岐に亘っている。生徒をはじめ、教職員や保護者に対し適切な助言やきめ細やかな支援が必要である。 ○生徒や保護者にスクールカウンセラーについての理解を求めることが必要である。						
	改 善 策						
○スクールカウンセラー、学校、適応指導教室等との情報交換と連携を図り、相談事業の取り組みを積極的にPRし、気軽に相談を受けられる体制づくりを進める。							

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	子どもと親の相談員活用事業						
事業の目的・概要	児童が悩みや不安を気軽に相談できる話し相手として、また、学校と保護者・地域のパイプ役として不登校や問題行動等の未然防止、早期発見、早期対応、児童虐待への対応及び小学校における教育相談体制の充実を図るため、相談員を小学校に配置。 ①児童の話し相手・悩み相談 ②その他の学校の教育相談活動の支援	事業年度	開始	終了			
			平成16年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			1,661	1,658	1,754	1,589	1,682
前年度の課題	○問題を抱えている児童や保護者が相談員と関わることのできないケースへの対応、よりきめ細やかな対応が必要である。 ○配置している学校以外においても要相談ケースが発生しており、個別の対応が必要である。						
当該年度の目標	○いじめ・不登校などの未然防止や早期対応。						
事業の実施状況	○子どもと親の相談員を小学校に配置（富良野小学校、扇山小学校、東小学校） ①児童の話し相手・悩み相談 ②家庭・地域と学校の連携の支援 ③その他の学校の教育相談活動の支援 ④中休み・昼休みを中心に来室 来室者 延べ217名（心の相談・学習相談・児童同士の相談など） ※児童、教員、保護者						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証 ○教室とは違った親しみやすく和める場所として開放している。 ○気になる児童や相談に訪れた児童の様子について担任教諭と情報共有し、よりきめ細かな見守りや相談活動に努めている。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○問題を抱えている児童や保護者へのきめ細やかな対応と、相談員と関わることのできないケースへのアプローチが必要。 ○配置していない学校においても要相談ケースが発生しており、個別の対応が必要である。						
今後の取り組み	改 善 策						
	○来室児童が多いことは、潜在的なニーズがあると思われることから、担任とは違った側面から児童や保護者との相談の場として、専門的知識を有した者（臨床心理士等）を引き続き配置する。 ○未配置校においても、学校と連携し、必要に応じて個別の対応を行う。						

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	心に響く道徳教育事業						
事業の目的・概要	自然体験や社会体験、生活体験の不足や人間関係の希薄さなどから規範意識や倫理観、生命を大切に他人を思いやる心など、豊かな心を育む「心の教育」の充実に努めるため、地域の人材や多様な専門分野の社会人を外部講師として活用し、道徳の時間等において子どもの心に響く授業を行い、道徳教育の充実を図る。	事業年度	開始	終了			
			平成19年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			69	88	78	87	85
前年度の課題	○富良野市にゆかりのある身近な人材、バラエティに富んだ講師の確保が求められる。						
当該年度の目標	○命を大切にすることを育む教育を推進する観点から、児童生徒が命の尊さなどを実感できる道徳教育の充実。 ○全小中学校を対象に、児童生徒の自己有用感・肯定感や気づきが持てるような講話の実施。						
事業の実施状況	○富良野市にゆかりのある講師による道徳教育(講話)の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・富良野商工会議所 会頭 荒木 毅 実施校2校 「職業観と人間の生き方について」 ・富良野自然塾 副塾長 林原 博光 実施校1校 「環境教育と人間の生き方について」 ・助産師 松本 恵子 実施校4校 「いのちの誕生と助産師の仕事について」 ・北海道大学 名誉教授 松井 博和 実施校1校 「地球の歴史と人間の生き方について」 ・静琴書道学院 主宰 大橋 静琴 実施校3校 「言葉の由来や表現について」 ・富良野市メセナ協会 代表 実施校2校 「オリンピックとNPOについて」 						
評価						達成度・効果度の検証 ○講師の豊富な知識や経験等に基づく講話により、児童生徒から「命の尊さ」や「新たな発見」といった感想も多く、子どもたちにとって心に響く講義となった。	
	達成度	A	A	A	A		A
評価						効果度	
	効果度	A	A	A	A		A
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○長年実施しているため、富良野市にゆかりのある身近でバラエティに富んだ講師(人材)の確保が求められる。						
今後の取り組み	改 善 策						
	○市内企業からも講師派遣について協力を願う。 ○28年度は新たに講師として、大橋様・篠田様を加えたところ5校から派遣依頼があり、今後も新たな講師の選定等の検証を行いながら事業推進を図る。						

Ⅲ 平成 28 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	いじめZERO推進	担当課	学校教育課				
事務事業名	富良野市いじめ問題対策連絡協議会、富良野市いじめ問題審議会						
事業の目的・概要	富良野市いじめZERO推進条例に基づき協議会と審議会を組織し、協議会はいじめの未然防止・早期発見・早期解消、その他いじめの対処を図るとともに不登校の防止・虐待防止・登下校時等の安全対策について学校やPTA・各関係機関・団体とのネットワーク化を図り、情報交換を行い迅速かつ的確に対応する。 審議会は附属機関として、いじめZEROの推進に関する事項を調査審議する。	事業年度	開始	終了			
			平成26年度	—			
		事業費(決算)(単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			—	—	—	53	67
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめアンケートの結果を検証し、児童生徒への働きかけや授業（総合的な学習）等で「いじめ問題」への理解や意識向上を図る必要がある。 ○いじめZEROに向けて講演会を開催し、地域全体で子どもを見守り、安心安全な学校・地域づくりを推進する必要がある。 						
当該年度の目標	○いじめZEROに向けた各種取組取り組みとともに、児童生徒へ「いじめは絶対にゆるされない」ことの意識向上を図る。						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○市内19の関係機関・関係団体がいじめ問題対策連絡協議会を組織し、情報を共有し、子どもたちの安全な生活環境の確保に努めている。協議会～5月23日開催 ○いじめ審議会を開催し、いじめZERO推進にあたって審議や助言をいただいた。 <ul style="list-style-type: none"> ・審議会～11月15日、2月13日開催 ○協議会構成団体 <ul style="list-style-type: none"> ・校長会 ・PTA連合会 ・富良野高等学校 ・富良野緑峰高等学校 ・富良野警察署 ・富良野保健所 ・富良野医師会 ・人権擁護委員 ・連合町内会協議会 ・家庭児童相談室 ・子ども会育成連絡協議会 ・要保護児童対策地域協議会 ・生徒指導連絡協議会 ・エクウエート富良野 ・民生委員児童委員協議会 ・保健福祉部こども未来課 ・社会教育委員会議 ・富良野地方石油業協同組合 ・富良野市教育委員会 ○いじめに関する講演会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・11月30日開催 61名参加 ・講師 臨床心理士 松田 剛 氏（市スクールカウンセラー） ○富良野市いじめ防止メッセージコンクール <ul style="list-style-type: none"> ・応募総数 979点（いじめ防止部門715点、ネットトラブル防止部門 264点） ・優秀作品30作品の表彰と市広報による市民周知 						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証
	達成度	—	—	A	A	A	
	効果度	—	—	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめに関する講演会を開催し、いじめに関する様々な内容について学習する良い機会となった。 ○いじめ防止メッセージコンクールを実施し、昨年より378作品多い応募結果となった。また、市内児童の作品が全道最優秀賞を受賞した。
今後の取り組み	今後の課題						
	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめアンケートの結果を検証し、引き続き、児童生徒への働きかけとともに授業や学級活動等で「いじめは絶対許されない」ことの理解や意識向上を図る必要がある。 ○いじめZEROに向けて講演会を開催し、地域全体で子どもを見守り、安心安全な学校・地域づくりを推進する必要がある。 						
	改善策						
	<ul style="list-style-type: none"> ○再度「いじめ」に対する児童生徒への働き掛けを全小中学校で実施するとともに、積極的認知に努める。 ○引き続き、講演会やいじめ防止メッセージコンクールを実施し、市民に対してもいじめ防止の周知を図る。 						

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	特別支援教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	特別支援教育支援員配置事業						
事業の目的・概要	<p>特別支援学級の児童生徒だけではなく、通常の学級に在籍する配慮・支援の必要がある児童生徒への教育的対応がより求められている。</p> <p>このため、富良野市特別支援教育マスタープランに基づき、こうした児童生徒に対する学校生活の介助や学習活動の支援、安全確保などのサポートを行うため、特別支援教育支援員を配置する。</p>	事業年度	開始	終了			
			平成20年度	継続			
事業費(決算) (単位:千円)			H24	H25	H26	H27	H28
			13,355	15,492	18,349	21,033	21,006
前年度の課題	<p>○困り感を抱える児童生徒が年々増加しているなか、関係機関と連携を図り、早期からの教育相談等を推進していくことが大切である。</p> <p>○増加し続ける対象児童生徒のニーズに応じた支援員の配置や増員。</p> <p>○各学校に配置している支援員とコーディネーター、教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた支援・指導が必要。</p>						
当該年度の目標	<p>○障がいのある児童生徒のほか、LD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥・多動性障がい)、高機能自閉症等を含めた児童生徒一人一人のニーズに応じた教育の推進</p> <p>○各学校において、支援員とコーディネーター、教員とが情報共有ができる体制の整備</p>						
事業の実施状況	<p>○配慮・支援が必要な児童生徒は増えてきており、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行うための指導体制を進めている。</p> <p>配置支援員 富良野小7名、扇山小4名、東小5名、山部小1名、鳥沼小1名、東中1名、西中1名の計20名 (平成27年度 19名、平成26年度 19名) 対象児童生徒 350名(平成27年度 324名、平成26年度 296名) (H28年度通常学級に在籍する特別な教育支援が必要な児童生徒数の調査+特別支援学級児童生徒)</p> <p>28年度は、不登校を抱える児童支援のため、一時的に在籍校に増員をした。 (上記人数には含まれていない)</p>						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	A	
今後取り組み	今後の課題						
	<p>○困り感を抱える児童生徒が年々増加しているなか、関係機関と連携を図り、早期からの教育相談等を推進していくことが大切である。</p> <p>○増加し続ける対象児童生徒のニーズに応じた支援員の配置や増員。</p> <p>○各学校に配置している支援員とコーディネーター、教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた支援・指導が必要。</p>						
今後取り組み	改善策						
	<p>○研修・講習会を行い、配慮・支援が必要な児童生徒への適切な支援を行えるよう、さらなるスキルアップに努める。</p> <p>○各学校で行われている支援の方法やコーディネーター、教員との情報共有の方法などを全校で共有するとともに、各学校が抱える課題を連携協議会で共有し、関係機関との連携と課題解決ができる環境の整備</p> <p>○対象児童生徒の増加傾向に合わせた支援員の増員と適正な配置</p>						

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	特別支援教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	特別支援連携協議会推進事業						
事業の目的・概要	富良野市第2次特別支援教育マスタープランに基づき、すべての幼児・児童・生徒が障がいのあるなしに関わらず、お互いの個性を尊重しあいながら夢と希望を持って心豊かにたくましく育ち合う教育の充実を図るため、関係者による特別支援連携協議会を組織する。 ・心身に障がいのある幼児及び児童生徒の適正な就学を図る ・協議会に知的部会・情緒部会・言語部会・専門家チーム(就学相談・就学支援)を設置	事業年度	開始	終了			
			平成20年度	継続			
事業費(決算) (単位:千円)		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			114	160	130	221	161
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○困り感を抱える児童生徒が年々増加しているなか、関係機関と連携を図り、早期からの教育相談等を推進していくことが必要である。 ○学校内でコーディネーター業務、役割等、引き継ぎのさらなる徹底が必要。 ○各学校に配置している支援員とコーディネーター、教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた指導が必要。 ○平成30年度からの第3次マスタープラン策定に向け、検証及び評価と見直しを行う。 						
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○障がいのあるなしに関わらず、特別な配慮・支援が必要な児童生徒のほか、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた教育の推進 ○各関係機関と一貫した連携と共通認識を図り、早期からの支援を行う。 ○児童生徒に対する適切な対応と関係者の十分な連携を図るため、協議会組織の見直しを図る。 						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○組織体制の強化(就学相談・就学指導を行う専門家チーム・教育支援委員会及びコーディネーター連絡会の設置) ○医療・福祉等関係機関との連携 ○就学時健康診断(知能検査、ことばの検査)の実施 10月17日、10月24日、10月31日 ○研修会・講演会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ①第1回特別支援教育研修会「特別支援教育推進のための教員研修」(6月20日42名) ②第2回特別支援教育研修会(道立特別支援教育センター研修会)(8月29日47名) 「児童生徒のよりよい学びを支える合理的配慮」 ③第3回特別支援教育研修会(道立特別支援教育センター研修会)(10月31日44名) 「WISC-IV知能検査の概要と解釈について」 ④第4回特別支援教育研修会「これからの特別支援教育に期待されること」(2月8日 41名) ⑤学校訪問及び実地指導(2月9日 東小) (④⑤講師:北海道教育大学釧路校 臨床教育学・特別支援教育教授 二宮信一氏) 						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	
今後取り組み	今後の課題						
	<ul style="list-style-type: none"> ○困り感を抱える児童生徒が年々増加しているなか、関係機関と連携を図り、早期からの教育相談等を推進していくことが必要である。 ○学校内でコーディネーター業務、役割等、引き継ぎのさらなる徹底が必要。 ○各学校に配置している支援員とコーディネーター、教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた指導が必要。 ○平成30年度からの第3次マスタープラン策定作業の実施 						
	改善策						
	<ul style="list-style-type: none"> ○就学相談を含めた相談支援体制のさらなる充実に向け、関係機関と情報共有し児童生徒の把握・理解を図る。 ○特別支援教育に関する研修会を開催し、担当者のスキルアップを図る。 						

Ⅲ 平成 28 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	キャリア教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	富良野市キャリア教育推進会議						
事業の目的・概要	キャリア教育は学校教育において児童生徒が「生きる力」を身に付け、勤労観や職業観及び職業に関する知識・技能等の育成を図る観点から関係機関、団体等が一体となり、協議・連携を推し進めていく必要がある。	事業年度	開始		終了		
			平成17年度		継続		
前年度の課題	○キャリア教育の目的意識の明確化を図る必要がある。 ○富良野市キャリア教育推進会議の活性化を図り、学校と事業所との連携を図る必要がある。 ○小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業・地域未来づくり会議と連携した事業の推進。	事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			—	—	—	—	—
当該年度の目標	○児童生徒一人ひとりの望ましい勤労観・職業観とともに自己有用感・肯定感の育成を図る。						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○職場体験(職場見学)実施校 小学校9校、中学校6校、高等学校2校 ○マイノートの活用 小学校9校、中学校6校 ○体験的活動、ボランティア活動など 小学校9校、中学校6校 ○キャリア教育推進会議 3月21日開催 構成 市内小中学校、市内高等学校、商工会議所、市P連 旭川公共職業安定所富良野出張所、富良野市(商工観光課) 富良野市教育委員会 ○小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業と連携した事業の推進(H27~29) 研究指定校 ~ 富良野緑峰高校・富良野西中学校・富良野小学校 						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証 ○職場見学や職場体験学習等は、授業では味わえない経験ができていないが、教育活動全体を通じた活動となっていない。 ○全学校でマイノートの活用を図り、自己有用感の醸成につながっている。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育の目的の共有化を図り、目的に合った実践の推進。 ○富良野市キャリア教育推進会議の活性化を図るため、組織の見直し。 ○最終年度を迎える「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」と連携・連動した事業の推進。 						
今後の取り組み	改 善 策						
	<ul style="list-style-type: none"> ○富良野市キャリア教育推進会議の開催により、学校と事業所との連携を構築し、キャリア教育の推進と充実を図る。 ○「マイノート(キャリアノート)」等の活用などにより、児童生徒の自己有用感の醸成を図る。 ○キャリア教育推進会議の組織見直しを図り、充実したキャリア教育の推進を検討する。 						

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	食育	担当課	学校教育課				
事務事業名	食育推進事業						
事業の目的・概要	子どもたちに食の楽しさ・大切さを伝えるために、家庭だけでなく保育所・幼稚園・学校など地域の関係者が連携しながら、食育の重要性について共通の認識を持ち、子どもたちの健やかな心と身体を育んでいくことを目的とし、「子どもたちのための食育ガイドライン」を基に食育推進を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成20年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			4	27	15	—	—
前年度の課題	○各学校の「食育の年間指導計画」と連動し、学力や体力・運動能力向上に取り組む必要がある。 ○「子どもたちのための食育ガイドライン」の検証及び評価と見直しに取り組む必要がある。						
当該年度の目標	○食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける。						
事業の実施状況	○平成20年3月に策定した「子どもたちのための食育ガイドライン」をもとに概略版を作成し、幼稚園、保育所、学校で配布。 ○栄養教諭（2名）の配置。 配置校～富良野小学校、富良野西中学校 ○栄養教諭による食育指導と啓発活動。 ○市ホームページを通じて栄養教諭の活動を周知し、食育の重要性・取り組みを紹介。						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証
	達成度	B	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○各学校の食育の年間指導計画と連動し、学力や体力、運動能力向上に取り組む必要がある。 ○「子どもたちのための食育ガイドライン」の検証及び評価と見直しに取り組む必要がある。						
	改 善 策						
	○健康診断等により児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携し「食育」を通じた健康管理を行う。 ○栄養教諭の増員に向け、全道市長会等を通じて強く要請していく。 ○学校給食の「食べ残しゼロ運動」や「早寝、早起き、朝ごはん、みんなそろって晩ごはん」運動の促進を継続実施する。 ○アンケート調査等を実施しながら、「子どもたちのための食育ガイドライン」の改訂作業の実施。						

Ⅲ 平成 28 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	情報教育	担当課	学校教育課					
事務事業名	ICT利活用事業							
事業の目的・概要	ICTの利活用により、児童生徒の「関心、意欲、態度」という観点で効果があり、児童生徒の学習内容への理解向上を図ることを目的とする。	事業年度	開始	終了				
			平成21年度	継続				
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28	
			—	—	—	4,284	3,112	
前年度の課題	<p>○各学校及び市教研情報班において、引き続き教材研究や研修を促す必要がある。</p> <p>○情報セキュリティの確立に向けて、教職員の意識改革が必要。</p>							
当該年度の目標	<p>○ICTを活用した授業研究及び授業公開の推進と児童生徒の学習内容への理解向上を図る。</p> <p>○タブレット端末を利用した特色ある授業づくり。</p>							
事業の実施状況	<p>○ICTを活用し、児童生徒の学習内容の理解向上を図る。</p> <p>○校内研修等によるICT活用方法の理解及び実践。</p> <p>○デジタル教科書の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28 中学校教科書改訂による整備 17セット <p>○タブレット端末の整備(教育用コンピューターの更新)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28 富良野小学校 43台、山部小学校 14台 							
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	B		<p>○デジタル教科書等の活用により、教科指導の幅が広がり、児童生徒の学習意欲の向上が図れた。</p> <p>○タブレット端末を持ち運びながら利用することにより調べ学習や体育の授業の動画撮影・指導等にも活用され、成果が図られた。</p>
	効果度	A	A	A	A	A		
今後取り組み	今後の課題							
	<p>○各学校及び市教研情報班において引き続き教材研究や研修を促す必要がある。</p> <p>○情報セキュリティの確立に向けて、教職員の意識改革が必要。</p>							
今後取り組み	改善策							
	<p>○学校における情報セキュリティの確立に向け、情報提供を通じて教職員の意識改革を図る。</p> <p>○端末等デジタル情報機器の計画的整備を図る。</p>							

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	国際理解教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	外国語指導助手招致事業						
事業の目的・概要	英語に慣れ親しみ日常会話や外国の文化、生活、習慣などを学ぶために、外国語指導助手を小中学校に派遣し、英語力向上を図る。	事業年度	開始	終了			
			平成7年度	継続			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			14,441	15,145	14,441	14,108	14,562
前年度の課題	<p>○国は平成32年から外国語活動を3・4年生からに、5・6年生は教科化とすることから、ALTの人数や配置、活用方法の検討が必要。さらに小学校教諭の英語力も求められる。</p> <p>○小学校から中学校英語へのスムーズな移行と学習意欲向上を促すための取組みと更なる連携が必要。</p> <p>○「英語が話せるふらのっ子」を推進する指導体制の充実が必要。</p>						
当該年度の目標	○児童生徒が英語を理解し、表現する基礎能力を養うとともに、外国の文化や生活習慣等を学びながら、英語力の向上を図る。						
事業の実施状況	<p>○外国語指導助手を3名（JETプログラム2名、独自採用1名）、小学校外国語活動等アドバイザー1名の計4名を配置し、外国語活動や英語教育、総合的な学習時間等に向けて市内小学校・中学校に派遣している。</p> <p>○外国語活動推進委員会を設置し、小中学校教諭、担当教諭と外国語指導助手との連携を図るとともに、「英会話サロン」の開催により教員のスキルアップを図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英会話サロン 10回開催 <p>○「英語が話せるふらのっ子」の推進に向けた取組みを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校における朝の英語活動を実施 ・「えいごLAND」の実施・・・扇山小学校、東小学校、富良野小学校 ・放課後子ども教室や児童館での行事に参加し、英語に触れる機会の提供 ・イングリッシュキャンプの実施・・・平成29年1月13日～14日（大雪青少年交流の家） ・社会科副読本の活用・・・英語版ムービー「ふらの」 ・富良野を紹介する教材の作成 ・「Passポート」の改訂 ・スクールバス乗車時を活用した英語活動・・・英語の歌のCDを作成し車内に放送 						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証
	達成度	B	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	○「えいごLAND」「イングリッシュキャンプ」等、英語に触れる機会を増やすことで、英語に対する学習意欲向上につながってきている。
今後取り組み	今後の課題						
	<p>○平成32年度からの新学習指導要領では、3・4年生から外国語活動、5・6年生は教科化となることから、ALTの人数や配置、活用方法の検討が必要。さらに小学校教諭の英語力も求められる。</p> <p>○小学校から中学校英語へのスムーズな移行と学習意欲向上を促すための取組みと更なる連携が必要。</p> <p>○「英語が話せるふらのっ子」を推進する指導体制の充実が必要。</p>						
今後取り組み	改善策						
	<p>○小学校教諭の研修、英会話サロンなどを継続して開催する。</p> <p>○小学校において外国語とふれ合う機会を増やすため、引き続き「えいごLAND」など気軽に英語とかかわれる環境づくりを行う。</p> <p>○「英語が話せるふらのっ子」をめざす観点から、ALTの独自採用を継続する。</p> <p>○5・6年生の教科化に対応するため、平成30年度から3・4年生の外国語活動の導入に向けた体制を整える。</p>						

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	健康診断事業	担当課	学校教育課				
事務事業名	児童生徒、教職員健康診断実施事業						
事業の目的・概要	健康診断事業の円滑な実施によって、児童生徒、教職員の健康増進を図る。 ○児童生徒の健康診断＝毎学年定期に児童生徒の健康診断を行わなければならない。 (学校保健安全法第13条第1項) ○教職員健康診断＝学校の設置者は毎学年定期に職員の健康診断を行わなければならない。 (同法第15条第1項) ○就学時健康診断＝翌学年から就学させるべき者の健康診断を行わなければならない。 (同法第11条)	事業年度	開始	終了			
			継続				
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			9,616	9,488	9,583	10,584	9,528
前年度の課題	○引き続き、児童生徒及び保護者の健康管理への意識を向上させる必要がある。 ○児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携しながら「食育」を通じた健康管理を行う必要がある。						
当該年度の目標	○児童生徒の健康診断の完全実施 ○教職員健康診断の受診率100%達成						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の健康診断 <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全法第13条第1項に基づき実施。 ・同法第15条第1項に基づき毎学年定期に実施。 ・平成28年度受診状況 対象者185名中 182名受診 (受診率98.4%) ○教職員健康診断 <ul style="list-style-type: none"> ・年2回の健診受診案内通知、未受診者に個別に呼びかけ実施 ・同法第11条に基づき実施 ・平成28年度 就学児健診受診案内者 214名 ・何らかの支援が必要とされる児童を発見し、就学前から該当児童及び保護者への相談・支援を実施している。 ○就学時健康診断 						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証 ○児童生徒の各種検診の実施により疾病の予防と早期発見につながっている。 ○教職員の受診率は98.4%となったが、健康管理への意識向上も定着してきている。未受診者もいることからさらに、計画的な受診について啓発していく。
	達成度	B	B	B	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○引き続き児童生徒及び保護者の健康管理への意識を向上させる必要がある。 ○児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携しながら「食育」を通じた健康管理を行う必要がある。						
	改 善 策						
	○児童生徒及び保護者に対して、保健だよりの発行を通じ健康管理の意識向上を促す。 ○未受診者に対して、管理職より個別に受診の呼びかけを行う。						

評価項目	小中学校歯科衛生	担当課	学校教育課				
事務事業名	フッ化物洗口事業						
事業の目的・概要	北海道は、全国に比べて、12歳児におけるむし歯が多い事から「歯・口腔の健康づくり8020推進条例」が制定されたことに伴い、北海道教育委員会としても幼児・児童生徒の歯・口腔の健康づくり推進を図るために小中学校でのフッ化物洗口の導入を支援している。さらに富良野市健康増進計画（第2次）においても歯科健康対策の推進としてフッ化物洗口実施による12歳児1人平均むし歯1.0歯未満が目指されたことから、事業実施を行う。	事業年度	開始	終了			
			平成25年度				
事業費(決算) (単位:千円)			H24	H25	H26	H27	H28
			59	382	240	156	227
前年度の課題	○歯科疾患の予防は「むし歯予防」及び「歯周病予防」が大切な事であり、フッ化物洗口のみならず、歯磨きの習慣を定着させることが必要。						
当該年度の目標	○フッ化物洗口にあたって、教職員の負担軽減と誤飲等の事故が起こらないよう、対応とフッ化物洗口に対する正しい情報の提供。						
事業の実施状況	○富良野市においては、全小中学校において希望者のみフッ化物洗口を実施。フッ化物洗口を希望しない場合は、水道水によるぶくぶくうがいを実施。 ○小学生は対象者1,055名に対し実施率94.1%、中学生は対象者567名に対し実施率90.4%であり、保育所・幼稚園でも実施されている。						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証 ○関係機関が一丸となった取組みを進めており、高い実施率を上げている。 ○事業効果については、継続して実施していく中で検証を行う事になるが、実施によるむし歯予防には有効と考える。
	達成度	—	A	A	A	A	
	効果度	—	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○歯科疾患の予防は「むし歯予防」及び「歯周病予防」が大切な事であり、フッ化物洗口だけではなく、歯磨きの習慣を定着させることが必要。						
	改 善 策						
	○養護教諭を中心に、児童生徒の歯・口腔の健康意識を向上させるための生活習慣を身に付けさせる指導を行う。						

Ⅲ 平成 28 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	高校教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	高校教育の推進						
事業の目的・概要	市内中学校と地区高校の相互連携により中高の教育振興と地元の魅力ある高校づくりを図る。	事業年度	開始		終了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
—	—		—	—	—		
前年度の課題	○授業交流・情報交流の継続により、中高各段階での学力の現状把握と、各段階で必要な基礎学力などの洗い出し。 ○小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業との連携						
当該年度の目標	○中高の情報を共有し、今日的な教育課題の解決を図る。 ○富良野地区の望ましい高校教育づくりを推進する。 ○地域や保護者の教育ニーズに対応した高校教育の充実を図る。						
事業の実施状況	○富良野市中高学校経営連絡協議会 市内の中学校及び富良野地区の高等学校が連携し、富良野地区の未来を支えるべき優秀な人材を地元の高校で育て、富良野地区の基幹産業を担う人材育成をめざし協議。 6月15日、12月1日開催 ○学力向上プロジェクトチーム ・専門部会議の開催 ・富良野高校及び富良野緑峰高校合同説明会(6月21日) ・各中学校での学校説明会、授業交流 ・中学校進路指導担当者向け学校説明会(10月25日) ・体験入学 富良野高 10月4日 287名参加 富良野緑峰高 8月26日 180名参加						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証 ○市教委主催による二校合同説明会では、中高が連携して行った取組として意義があり、両高の特色がしっかりと説明された。 ○中高間の授業交流では、お互いの課題を確認することができた。 ○中学校の合唱コンクールの外部審査員として高校教諭を招くなど中高連携が進行してきている。
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○中学生が選択するポイントを捉え、より充実した授業交流や説明会の実施。 ○高大接続の入試改革の情報提供						
	改 善 策						
	○授業交流・情報交流の継続により、中高各段階での学力の現状把握と、各段階で必要な基礎学力などの洗い出しを進め、中高が連携して学力向上を図る。 ○授業交流を継続実施するとともに、他の教科の協力についての検討。 ○小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業との連携及び中高交流の促進						

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	コミュニケーション教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	学校教育コミュニケーション教育推進事業						
事業の目的・概要	演劇的手法等を用いたワークショップを通じて、児童生徒に豊かな想像力や思考能力とともに他者理解、話す・聞くの基本など、「気づき」「きっかけ」を得て、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図る。	事業年度	開始		終了		
			平成28年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			—	—	—	—	1,313
前年度の課題	【新規点検・評価事業】						
当該年度の目標	○全小中学校において演劇的手法を用いたワークショップを実施し、コミュニケーション能力の向上を図る。						
事業の実施状況	<p>○ワークショップ等実施状況 実施校 全13校(延べ18回) 参加児童生徒数 868人 参加保護者数 40人</p> <p>○実施内容 ・表現プログラム(シアターゲーム) ・コミュニケーション・プログラム ・ボディパーカッション ・レクリエーション・プログラム等 から学校と協議し、ニーズに合わせた内容で実施。</p>						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証
	達成度					A	
	効果度					A	
今後の取組み	今 後 の 課 題						
	<p>○事業の実施について、児童生徒のほか、保護者の参加についても検討する。</p> <p>○事業継続により小規模校では、同一児童生徒が繰り返すことになり、様々な導入方法が必要。</p>						
	改 善 策						
	○コミュニケーション能力の向上については、各学校とも理解されており、今後も様々なプログラムの継続実施により児童生徒の関心を高める取組が必要。						

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	家庭教育	担当課	社会教育課													
事務事業名	家庭教育支援事業															
事業の目的・概要	幼児・児童生徒の保護者及び地域の人々を対象に、家庭や地域の教育力をより高めるため、子どもの基本的な生活習慣・自立心・自主性・耐性などを培うことについて、関係機関・団体と連携し、学習機会の充実を図る。	事業年度	開始	終了												
			平成9年度	継続												
事業費(決算) (単位:千円)			H24	H25	H26	H27	H28									
			256	99	212	278	255									
前年度の課題	○各関係機関・団体と連携し、家庭教育に関する学習機会や情報提供をしているが、多くの保護者が家庭教育に関して関心を持つように、より参加しやすい環境づくりや学習内容の検討、継続的な情報提供が必要である。 ○育児や子育てに積極的に関わる父親が増えつつあるが、セミナーや講演会に気軽に参加できる仕組みづくりや様々な情報提供を行う必要がある。															
当該年度の目標	○家庭の教育力を高めるための学習機会の充実															
事業の実施状況	○家庭教育セミナー															
	<table border="1"> <tr> <td>市街地区</td> <td>7/19(月) 8/30(火) 9/6(火)</td> <td><子どもたちに学ぶ家庭教育講座> 人間らしい子ども育てる親の役割 言葉の重要性 ありがとうと言える子ども</td> <td>45名</td> </tr> <tr> <td>布部地区</td> <td>10/30(日)</td> <td>絵から読み取る子どもの心</td> <td>22名</td> </tr> <tr> <td>東山地区</td> <td>12/6(火)</td> <td>ハートでトーク(豊かな心を育てる家庭教育)</td> <td>44名</td> </tr> </table>	市街地区	7/19(月) 8/30(火) 9/6(火)	<子どもたちに学ぶ家庭教育講座> 人間らしい子ども育てる親の役割 言葉の重要性 ありがとうと言える子ども	45名	布部地区	10/30(日)	絵から読み取る子どもの心	22名	東山地区	12/6(火)	ハートでトーク(豊かな心を育てる家庭教育)	44名			
市街地区	7/19(月) 8/30(火) 9/6(火)	<子どもたちに学ぶ家庭教育講座> 人間らしい子ども育てる親の役割 言葉の重要性 ありがとうと言える子ども	45名													
布部地区	10/30(日)	絵から読み取る子どもの心	22名													
東山地区	12/6(火)	ハートでトーク(豊かな心を育てる家庭教育)	44名													
評価	○家庭教育講演会(会場:富良野文化会館)															
	<table border="1"> <tr> <td>12/5(月)</td> <td>学校と家庭・地域の連携について ～チーム学校、コミュニティ・スクールと家庭教育について～</td> <td>55名</td> </tr> </table>	12/5(月)	学校と家庭・地域の連携について ～チーム学校、コミュニティ・スクールと家庭教育について～	55名												
12/5(月)	学校と家庭・地域の連携について ～チーム学校、コミュニティ・スクールと家庭教育について～	55名														
○家庭教育ハンドブック(乳幼児編、小学低・中学年編、小学高学年・中学生編)の作成、配布 ○ケータイ、インターネットトラブル防止に関する小冊子の作成、配布 ○スマートフォンやインターネットの利用に関する実態調査(9~10月)																
達成度・効果度の検証						○家庭・地域の教育力向上につながっており、子育てに関する知識が増えるとともに、家庭教育の重要性について学ぶ機会となっている。										
	達成度	B	B	B	B		B									
効果度						○家庭・地域の教育力向上につながっており、子育てに関する知識が増えるとともに、家庭教育の重要性について学ぶ機会となっている。										
	効果度	A	A	A	A		A									
今後の取り組み	今 後 の 課 題 ○各関係機関・団体と連携し、家庭教育に関する学習機会や情報提供をしているが、多くの保護者が家庭教育に関して関心を持つように、より参加しやすい環境づくりや学習内容の検討、継続的な情報提供が必要である。 ○スマートフォンやインターネットの利用に関する実態調査を踏まえた事業展開に努める。															
	改 善 策 ○引き続き、多くの親が参加する機会を活用した学習機会の提供や情報提供に努める。 ○各種事業等を活用した父と子のふれあい交流を推進し、家庭教育への関心と参加を推進する。 ○家庭教育ハンドブック等の有効利用をはじめ、各関係機関・団体と連携し家庭教育に関する情報発信に努める。 ○市PTA連合会と連携した家庭教育向上に向けた取り組み。															

Ⅲ 平成 28 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	家庭教育	担当課	社会教育課								
事務事業名	親と子のふれあい事業										
事業の目的・概要	家庭や地域の人々との共感的な人間関係を大切にして、心のつながりを深める活動を通して、子どもの心身の発達を促す。	事業年度	開始	終了							
			昭和52年度	継続							
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H25	H27	H28				
			市民講座事業・図書館事業に掲載								
前年度の課題	○公民館事業、図書館事業として取り組んでいるが、各施設間の連携を図りながら親子のふれあいを深めるとともに、子どもの健やかな成長を目指すために事業内容を充実し、より多くの親子が気軽に参加できる機会の提供が必要である。										
当該年度の目標	○家庭の教育力を高めるための学習機会の充実 ○親子で楽しみながら、豊かな心を育てる共同体験機会の充実 ○地域の社会資源を活用した土曜日の教育支援体制の構築										
事業の実施状況	○市民講座【家庭教育・親子を対象にした講座】 ・土曜塾(会場:富良野文化会館)										
	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:15%;">6/18(土)</td> <td style="width:60%;">親子で楽しむ!レザークラフト</td> <td style="width:25%;">5組11名</td> </tr> <tr> <td>10/1(土)</td> <td>親子で楽しむ陶芸体験</td> <td>4組9名</td> </tr> </table> <p>※パパのためのインファントマッサージ定員不足につき中止</p>						6/18(土)	親子で楽しむ!レザークラフト	5組11名	10/1(土)	親子で楽しむ陶芸体験
6/18(土)	親子で楽しむ!レザークラフト	5組11名									
10/1(土)	親子で楽しむ陶芸体験	4組9名									
評価	○読み聞かせ(図書館) ・どんぐりのおはなし会 42回 延 607名 ・土曜日のおはなし会 12回 延 448名 ・えいごのおはなし会 10回 延 311名 ○スマートフォンやインターネットの利用に関する実態調査(9~10月) ○子どもの図書館まつり 5/11~5/15 来館者延べ1,890名										
		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証				
	達成度	B	B	B	B	B	○親と子がふれあう機会を通して絆を確認し、家庭教育の重要性を学ぶ場となっている。 ○親子のための講座開設時期が偏るとともに、子育てに関わる父親への参加促進不足				
	効果度	A	A	B	A	A					
今後の取り組み	今 後 の 課 後 題										
	○公民館事業、図書館事業として取り組んでいるが、各施設間の連携を図りながら親子のふれあいを深めるとともに、子どもの健やかな成長を目指すために事業内容を充実し、より多くの親子が気軽に参加できる機会の提供が必要である。										
今後の取り組み	改 善 策										
	○事業内容の検討を行い、関係する部署や関係する機関・団体、家庭教育サポート企業などと連携し、より多くの親子が参加できる機会を提供しながら事業展開を図る。										

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課																																										
事務事業名	子ども未来づくり事業（子ども未来づくりフォーラム）																																												
事業の目的・概要	子どもの立場から「まちづくり」に対する自由な発想や意見を出し合い、自主的に社会参加するとともに市政に対する関心を高め、富良野市の未来を担う青少年を育成することを目的とする。	事業年度	開始		終了																																								
			平成19年度		継続																																								
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28																																						
			31	37	29	34	32																																						
前年度の課題	<p>○郷土への理解と郷土への愛情を育み、将来、まちの担い手として成長できるキャリア教育、人材育成を主眼に置いた事業展開を図る必要がある。</p> <p>○そのためには、本事業の内容とねらいをしっかりと見定め、全小学校が参加できる体制の再構築が必要。</p>																																												
当該年度の目標	<p>○郷土への理解と郷土への愛情を育み、将来、まちの担い手として成長できるキャリア教育、人材育成を主眼に置いた事業展開を図る。</p> <p>○自分やグループ内での考え、表現する力の育成と子ども一人ひとりの多様な考えを引き出す発表の場を提供する。</p>																																												
事業の実施状況	<p>○こども未来づくりフォーラム</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校の授業や生徒会活動等で取り組まれている特色ある取組み」や「地域課題解決に向け自分達にできること」、「市民が取り組むべきこと」などについて発表。 ・11/30開催 会場：文化会館大ホール <table border="1"> <tr> <td>①東小学校5年</td> <td>富良野の宝</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td>②布礼別小5・6年</td> <td>布礼別のよさを世界に！</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>③鳥沼小3・4年</td> <td>べじたぶるん大作戦</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td>④布部小5・6年</td> <td>看板作成～他の街の工夫をヒントにして</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>⑤山部小6年</td> <td>地域に発信！山部アピール大作戦</td> <td>15名</td> </tr> <tr> <td>⑥樹海小5・6年</td> <td>樹海地区PR「樹海 秋のベジタブル</td> <td>11名</td> </tr> <tr> <td>⑦麓郷小6年</td> <td>元麓郷中学校の活用について～あったらいいな こんな場所～</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>⑧富良野小6年</td> <td>「富良野の未来に向けて」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6-1</td> <td>私たちが考える「ルーバン富良野構想」</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>6-2</td> <td>住みやすい富良野を目指して</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>6-3</td> <td>富良野の未来の形</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>⑨扇山小5年</td> <td>富良野の農業を考えよう</td> <td>8名</td> </tr> <tr> <td>9校</td> <td></td> <td>87名</td> </tr> </table> <p>小中学校関係（児童生徒、教員） 一般観覧者（議会、教委関係者、ことぶき大学生、保護者等） 260名</p>						①東小学校5年	富良野の宝	12名	②布礼別小5・6年	布礼別のよさを世界に！	3名	③鳥沼小3・4年	べじたぶるん大作戦	14名	④布部小5・6年	看板作成～他の街の工夫をヒントにして	7名	⑤山部小6年	地域に発信！山部アピール大作戦	15名	⑥樹海小5・6年	樹海地区PR「樹海 秋のベジタブル	11名	⑦麓郷小6年	元麓郷中学校の活用について～あったらいいな こんな場所～	2名	⑧富良野小6年	「富良野の未来に向けて」		6-1	私たちが考える「ルーバン富良野構想」	5名	6-2	住みやすい富良野を目指して	5名	6-3	富良野の未来の形	5名	⑨扇山小5年	富良野の農業を考えよう	8名	9校		87名
	①東小学校5年	富良野の宝	12名																																										
②布礼別小5・6年	布礼別のよさを世界に！	3名																																											
③鳥沼小3・4年	べじたぶるん大作戦	14名																																											
④布部小5・6年	看板作成～他の街の工夫をヒントにして	7名																																											
⑤山部小6年	地域に発信！山部アピール大作戦	15名																																											
⑥樹海小5・6年	樹海地区PR「樹海 秋のベジタブル	11名																																											
⑦麓郷小6年	元麓郷中学校の活用について～あったらいいな こんな場所～	2名																																											
⑧富良野小6年	「富良野の未来に向けて」																																												
6-1	私たちが考える「ルーバン富良野構想」	5名																																											
6-2	住みやすい富良野を目指して	5名																																											
6-3	富良野の未来の形	5名																																											
⑨扇山小5年	富良野の農業を考えよう	8名																																											
9校		87名																																											
評価			H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証																																					
	達成度		A	A	A	A	A		<p>○各学校における特色ある取組や学習内容、富良野市のまちづくりについて、子どもたちが自らの考えやアイデア等を発表し、表現する場となっている。</p> <p>○パワーポイントなどICTの活用により、子どもたちのプレゼンテーション力向上が見られる。</p> <p>○劇や笑い、観覧者参加型の発表もあり、各校の工夫が見られた。</p>																																				
今後取り組み	今 後 の 課 題																																												
	<p>○郷土への理解と郷土への愛情を育み、将来、まちの担い手として成長できるキャリア教育、人材育成を主眼に置いた事業展開の継続。</p>																																												
今後取り組み	改 善 策																																												
	<p>○学校との連携を図り、計画的な事業推進に努める。</p>																																												

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課																					
事務事業名	ふらのまちづくり未来ラボ推進事業																							
事業の目的・概要	地域の各分野で活躍している大人と好奇心を持った子ども達が、ワークショップ学習や体験活動を通して、子ども達の情操教育と郷土愛を育み、次代を担う子ども達の人材育成を図る。	事業年度	開始		終了																			
			平成28年度																					
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28																	
			-	-	-	-	1,577																	
前年度の題																								
当該年度の目標	○地域の魅力の発見と自らが参画できる地域社会づくりの実践を通して、富良野で豊かな郷土愛を持つ人材を育てる																							
事業の実施状況	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:70%;">ワークショップ名</th> <th style="width:10%;">実施回数</th> <th style="width:20%;">参加延べ人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>まちをつくろうWS ～ふらのゆめらんたん～</td> <td>5回</td> <td>404名</td> </tr> <tr> <td>空から鳥になってWS ～ふらのを知らう～</td> <td>3回</td> <td>73名</td> </tr> <tr> <td>はたらく人になってWS ～ウェディングプランナー</td> <td>7回</td> <td>601名</td> </tr> <tr> <td>見て、作って、食べてWS ～美味しいを探そう～</td> <td>4回</td> <td>76名</td> </tr> <tr> <td style="text-align:center;">計 4WS</td> <td>19回</td> <td>1,154名</td> </tr> </tbody> </table>						ワークショップ名	実施回数	参加延べ人数	まちをつくろうWS ～ふらのゆめらんたん～	5回	404名	空から鳥になってWS ～ふらのを知らう～	3回	73名	はたらく人になってWS ～ウェディングプランナー	7回	601名	見て、作って、食べてWS ～美味しいを探そう～	4回	76名	計 4WS	19回	1,154名
	ワークショップ名	実施回数	参加延べ人数																					
まちをつくろうWS ～ふらのゆめらんたん～	5回	404名																						
空から鳥になってWS ～ふらのを知らう～	3回	73名																						
はたらく人になってWS ～ウェディングプランナー	7回	601名																						
見て、作って、食べてWS ～美味しいを探そう～	4回	76名																						
計 4WS	19回	1,154名																						
事業の実施状況	<p>委託業務名 ふらのまちづくり未来ラボ推進事業 実施期間 平成28年4月1日～平成29年3月15日 受託者 一社) 富良野デザイン会議暮らしステーション</p>																							
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証																	
	達成度	-				B		○家庭、学校、職場の関係を越えた多くの出会いが期待される。 ○市民の新たな富良野コミュニティが創出が期待される。																
効果度					A																			
今後の取り組み	今 後 の 課 題																							
	○今後も民間のノウハウやアイデアを活用しながら、行政と民間の役割を明確にし、協働で推進していく必要がある。																							
今後の取り組み	改 善 策																							
	○行政と民間の連携協力を努めていく。																							

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	子ども会育成事業						
事業の目的・概要	異年齢集団である子ども会活動への参加奨励を図り、団体活動の基礎的知識や技術を学び、子ども会活動の活性化を図る。	事業年度	開始	終了			
			昭和38年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			907	952	927	955	948
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの減少等により、子ども会や育成連絡協議会への加入が困難な地区もあり、引き続き加入の働きかけを継続して行う必要がある。 ○子ども会活動の基礎知識や技術を持った育成員の養成を継続して行い、子ども会の活性化を図る必要がある。 ○アウトドア体験をとおしたリーダー研修会は年々、参加する子ども達が増えており、四季折々の自然体験をとおした取組みを継続する必要がある。 						
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の教育資源を活かした様々な学習機会の充実 ○豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実 ○スポーツ、文化、ボランティアなどの活動への支援と参加促進 ○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備 						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○富良野市子ども会育成連絡協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・加盟単位数 15団体 ・会員数 836名 ○子ども会事業 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー研修会【前期】 8/4～6 62名 山部太陽の里キャンプ場(生涯学習センター) ・リーダー研修会【後期】 3/25～27 63名 国立大雪青少年交流の家 ・シニアリーダー研修会(青少年サークル) 6/25～26 12名 東春コミセン・人材開発センター ・イングリッシュキャンプ 1/13～14 27名 国立大雪青少年交流の家 ・かるた大会 1/14 5チーム13名 文化会館 ・遊びの出前事業 延7回 (青少年サークルを単位・地区子ども会等へ派遣) 						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	A	A	
今後の取組み	今後の課題						
	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの減少等により、子ども会や育成連絡協議会への加入が困難な地区もあり、引き続き加入の働きかけを継続して行う必要がある。 ○子ども会活動の基礎知識や技術を持った育成員の養成を継続して行い、子ども会の活性化を図る必要がある。 ○アウトドア体験をとおしたリーダー研修会は年々、参加する子ども達が増えており、四季折々の自然体験をとおした取組みを継続する必要がある。 						
	改善策						
	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども会加入の働きかけを継続するとともに、子ども会未加入の子ども達も事業に参加し、異年齢集団を通じた体験により子ども会活動の良さを体験できる多様な活動内容の充実を図る。 ○時代に対応する組織運営について助言を行うとともに、研修等を通じた育成員の養成を図る。 ○リーダー研修会は、体験活動や自然体験を取り入れた多彩なプログラムを提供する。 						

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	青少年表彰	担当課	社会教育課				
事務事業名	青少年表彰事業						
事業の目的・概要	青少年（個人、団体）を対象に、青少年活動、社会活動及び家庭生活等において他の模範となる者を表彰する。	事業年度	開始		終了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
58	39		39	26	41		
前年度の課題	○他の模範となる個人や団体の該当者を幅広く発掘し、推薦してもらう必要がある。 ○青少年団体をリードする人材育成を図る必要がある。						
当該年度の目標	○ふるさとの意識を高める各種リーダーの養成						
事業の実施状況	○富良野市青少年表彰式 ・ 11月23日開催 文化会館大会議室 ・ 被表彰者 2団体 ○富良野緑峰高等学校園芸科学科 ふらのカレンジャー娘 ・ 市内外のイベント出展を通じた農産物や富良野のPR活動 ・ オムカレー弁当の商品開発 ・ 学校給食センターと連携した食育授業の展開 ○日本ボーイスカウト富良野第1団 ・ 野外体験活動（キャンプ体験・自然観察会） ・ 交通安全啓発活動、募金活動（緑の羽根・赤い羽根） ・ 環境美化活動（ゴミ拾い）、社会奉仕活動						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証 ○活動が顕著な青少年（個人・団体）を表彰し、他の青少年の模範や励みとなっている。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○他の模範となる個人や団体の該当者を幅広く発掘し、推薦してもらう必要がある。 ○青少年団体をリードする人材育成を図る必要がある。						
	改 善 策						
○様々な機会や広報を通して、青少年表彰制度について広く市民に周知する。 ○各関係機関・団体及び町内会や市民に対して広く該当者の推薦を募る。							

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	青少年補導センター運営事業						
事業の目的・概要	青少年が心身ともに健康で調和のとれた発達ができるよう、市民や関係機関・団体との連携により、青少年の健全育成を主眼とした非行の未然防止に努める。 ◇補導員 市内小・中・高校の生徒指導担当教諭及び関係団体の推薦により教育委員会が委嘱	事業年度	開始	終了			
			昭和50年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			256	98	149	150	157
前年度の課題	○子ども達のたまり場となりやすい市内の商業施設や娯楽施設、公園等を重点的に月3回程度巡回するとともに、引き続き施設管理者や関係機関団体との情報交換等連携をとりながら、青少年の非行防止に努める必要がある。 ○少年補導員連絡協議会や富良野警察署との連携。						
当該年度の目標	○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備						
事業の実施状況	○補導員数 35名 委嘱 ○街頭補導(富良野地区) ・富良野地区28回、山部地区0回(山部盆踊り中止) 延従事者46名 結果:補導なし。呼びかけ29人 ○補導員会議(兼研修会) ・6月2日開催 27名出席 文化会館 ○広域補導(旭川地区広域補導連絡協議会) ・合同補導…北海へそ祭り祭典補導(富良野市) 7名(うち市補導員4名) ・合同補導…第1回春季合同補導(旭川市) 3名(うち市補導員1名) ・列車添乗補導…1回実施(富良野～幾寅間) 3名(うち市補導員2名) ・旭川地区広域補導連絡協議会研修会 7/13 ・旭川地区広域補導連絡協議会実務担当者会議 2/21						
評価	○スマ	H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証 ○街頭補導や祭典補導を実施し、子ども達とあいさつや声掛けを交わすことにより、非行の未然防止につながっている。 ○商業施設や娯楽施設などの協力により施設内パトロールを実施。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○子ども達のたまり場となりやすい市内の商業施設や娯楽施設、公園等を重点的に月3回程度巡回するとともに、引き続き施設管理者や関係機関団体との情報交換等連携をとりながら、青少年の非行防止に努める必要がある。 ○少年補導員連絡協議会や富良野警察署との連携。						
今後の取り組み	改 善 策						
	○学校、家庭、関係機関団体、施設管理者等とのネットワーク化を推進し、情報交換や連携を密にしながら青少年の健全育成を推進する。						

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	放課後子ども教室推進事業						
事業の目的・概要	放課後の子ども達の安全、安心な居場所を設け、子ども達に文化・スポーツ活動等の体験を通じて、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。 ○平成20年度 山部小学校で新規開設 ○平成22年度 樹海小学校で新規開設 ○平成23年度 布礼別小学校で新規開設 ○平成25年度 布部小学校で新規開設 ○平成28年度 鳥沼小学校で新規開設 (H28.11開設)	事業年度	開始		終了		
			平成20年度		継続		
事業費(決算) (単位:千円)			H24	H25	H26	H27	H28
			6,146	6,293	5,567	5,782	6,455
前年度の課題	○引き続き児童館が設置されていない地区での新規開設に向けての検討が必要である。						
当該年度の目標	○地域の教育資源を生かした様々な学習機会の充実 ○豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実 ○スポーツ、文化、ボランティアなどの活動への支援と参加の促進						
事業の実施状況	○山部地区放課後子ども教室 ・登録児童数 41名 (H27年度/40名) ・開催日数 220日 (H27年度/192日) ・延 5,358名出席 (H27年度/4,255名) ・教育活動サポーター 延441名 ○布部地区放課後子ども教室 ・登録児童数 13名 (H27年度/12名) ・開催日数 155日 (H27年度/166日) ・延 1,809名出席 (H27年度/1,577名) ・教育活動サポーター 延162名 ○布礼別地区放課後子ども教室 ・登録児童数 11名 (H27年度/13名) ・開催日数 42日 (H27年度/46日) ・延 475名出席 (H27年度/498名) ・教育活動サポーター 延42名 ○鳥沼地区放課後子ども教室 ・登録児童数 12名 ・開催日数 81日 ・延 551名出席 ・教育活動サポーター 延113名 ○東山地区放課後子ども教室 ・登録児童数 31名 (H27年度/32名) ・開催日数 174日 (H27年度/172日) ・延 3,549名出席 (H27年度/3,890名) ・教育活動サポーター 延338名						
評価			H24	H25	H26	H27	H28
	達成度		B	B	B	B	B
	効果度		A	A	A	A	A
		達成度・効果度の検証					
		○児童の安全、安心な居場所づくりと心豊かで健やかに育まれる環境づくりに効果をあげている。 ○鳥沼地区の新規開設 (H28.11)					
今後の取り組み	今後の課題						
	○未設置地区(麓郷小学校区)の実態調査を進めていく。						
	改善策						
		○児童館あるいは放課後子ども教室が未設置の麓郷地区における開設については、引き続き地域住民、関係機関と協議を継続していく。					

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	学社融合推進事業						
事業の目的・概要	学校・家庭・地域社会の教育力を結びつけ、富良野市の教育の充実と活性化を目指す「学社融合」を積極的に推進し、ゆとりと潤いのある学習社会の実現を図るとともに、平成23年度より学校支援地域本部事業機能を取り込んで、地域の教育力を活性化するため地域全体で学校教育を支援していく。	事業年度	開 始		終 了		
			平成11年度 (学校支援は平成20年度)		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			356	243	282	291	269
前年度の課題	○学校支援地域本部事業の学校支援ボランティアへ、より多くの登録を進めるとともに、地域の教育資源をより一層有効に活用する必要がある。						
当該年度の目標	○地域の教育資源を生かした様々な学習機会の充実 ○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備 ○学習活動を支援するための情報提供や指導、相談体制の整備						
事業の実施状況	<p>○富良野市学社融合推進委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進委員 22名委嘱(教頭会から推薦の幹事2名含む) ・市内小中学校における実践事例 276事例 ・推進委員会開催 (6/30) <p>○学社融合研修会(講演会) 2/27開催 70名 会場:文化会館</p> <p>演題:子ども・若者が主役のまちづくり ～地域学校協働活動と市民の役割～</p> <p>講師:東京大学大学院教育学研究科 教授 牧野 篤氏</p> <p>○学校支援ボランティアの登録数 287名 (男性90名、女性197名)</p> <p>①家庭科補助10名 ②体育補助99名 ③読み聞かせ98名 ④農園手伝い7名 ⑤環境整備20名 ⑥自然科学・歴史4名 ⑦食育5名 ⑧パソコン3名 ⑨文学・文化7名 ⑩学校行事支援10名 ⑪登下校時等の安全指導29名 ⑫その他59名 ※希望分野が複数の登録者あり</p>						
評価			H24	H25	H26	H27	H28
	達成度	A A A A A					達成度・効果度の検証 ○学校・家庭・地域社会が一体となり、地域の教育活動を推進している。
効果度	A A A A A						
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○学校支援地域本部事業の学校支援ボランティアへ、より多くの登録を進めるとともに、地域の教育資源をより一層有効に活用する必要がある。						
今後の取り組み	改 善 策						
	○活動内容の広報活動を行うとともに、学校との情報交換等を行いながら学校支援ボランティアの登録分野の一層の活用促進と地域の教育資源の整備充実を図り、地域の教育力の向上を目指す。						

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課																															
事務事業名	青年活動活性化事業（青年塾）																																	
事業の目的・概要	平成23年度に実施したアンケート調査結果（20～39歳対象）から、①出会い・交流の場 ②まちの活性化 ③ボランティア活動 ④休日・余暇活動に関して問題意識があり、同世代の交流を強く求めていることが明らかになった。 このため、青年活動（集団づくり）の活性化を図るとともに、様々な学習の機会を通し、青年集団をリードする人材育成を図る。	事業年度	開 始		終 了																													
			平成24年度		継続																													
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28																											
			38	48	137	196	202																											
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○さらなる塾生間の交流を進めるとともに、他団体等との交流や課題解決に向けた学習機会の提供が引き続き必要である。 ○各種イベントやボランティア活動等への参加の理解を深めるとともに、企画事業への積極的参加が必要である。 ○活動内容の周知を広く行う必要がある。 																																	
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○青年の出会いと交流の場（ふらの青年塾）を引き続き開設し、自己実現を行うための課題解決に向けた学習・体験活動や広域的な交流を行う。 ○広報等を活用した活動内容の周知 																																	
事業の実施状況	○会員数																																	
	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>会員数</td> <td>男</td> <td>女</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>H28年度末</td> <td>25名</td> <td>17</td> <td>8</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>							会員数	男	女				H28年度末	25名	17	8																	
	会員数	男	女																															
H28年度末	25名	17	8																															
事業の実施状況	○活動状況（H28）																																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>事 業 名</th> <th>日 程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">自主活動</td> <td>青年塾定期総会</td> <td>5/26</td> </tr> <tr> <td>富良野沿線スポーツ交流会</td> <td>5/28.9/25</td> </tr> <tr> <td>ミニ運動会</td> <td>7/23</td> </tr> <tr> <td>サンタの宅急便</td> <td>12/24</td> </tr> <tr> <td>Juku-Cafe①～③</td> <td>11/13、1/28、3/29～31</td> </tr> <tr> <td>北海へそ祭り</td> <td>7/28</td> </tr> <tr> <td>定例会・部会</td> <td>6～3(10回)</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">地域活動</td> <td>フラビ・アモール協力</td> <td>7/15.22.8/5.12</td> </tr> <tr> <td>ふらの七夕祭り</td> <td>8/7</td> </tr> <tr> <td>ワインぶどう祭り出店協力</td> <td>9/3</td> </tr> <tr> <td>ふらのへそコン協力</td> <td>12/3</td> </tr> <tr> <td>成人式協力</td> <td>1/8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※Juku-Cafeとは塾生の交流・スキルアップを目的とした研修、講座、交流事業など。 本年度はやさいdeクッキング、年配者と青年の交流、百人一首学習を実施。</p>						区 分	事 業 名	日 程	自主活動	青年塾定期総会	5/26	富良野沿線スポーツ交流会	5/28.9/25	ミニ運動会	7/23	サンタの宅急便	12/24	Juku-Cafe①～③	11/13、1/28、3/29～31	北海へそ祭り	7/28	定例会・部会	6～3(10回)	地域活動	フラビ・アモール協力	7/15.22.8/5.12	ふらの七夕祭り	8/7	ワインぶどう祭り出店協力	9/3	ふらのへそコン協力	12/3	成人式協力
区 分	事 業 名	日 程																																
自主活動	青年塾定期総会	5/26																																
	富良野沿線スポーツ交流会	5/28.9/25																																
	ミニ運動会	7/23																																
	サンタの宅急便	12/24																																
	Juku-Cafe①～③	11/13、1/28、3/29～31																																
	北海へそ祭り	7/28																																
	定例会・部会	6～3(10回)																																
地域活動	フラビ・アモール協力	7/15.22.8/5.12																																
	ふらの七夕祭り	8/7																																
	ワインぶどう祭り出店協力	9/3																																
	ふらのへそコン協力	12/3																																
	成人式協力	1/8																																
評価						達成度・効果度の検証																												
	達成度	B	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○塾生同士（年齢や業種を超えた）の出会いと交流の場や、地域イベントへの参加と企画運営に携わり、活動の輪の継続が図られてきている。 ○塾生と富良野沿線在住の青年層との体験（学習）活動を通じた交流が図られてきている。 ○塾生自らが企画から実施に携わるような仕組みづくりが少しずつ図られてきている。 																											
今後の取り組み	今 後 の 課 題																																	
	<ul style="list-style-type: none"> ○さらなる塾生間の交流を進めるとともに、他団体等との交流や課題解決やスキルアップに向けた学習機会の提供が引き続き必要である。 ○地域に活動内容を広く周知していく必要がある。 																																	
今後の取り組み	改 善 策																																	
	<ul style="list-style-type: none"> ○定例全体会議等を通じた情報交換・情報共有を行い親睦を深めるとともに、他青年活動団体等との交流を行う。 ○地域活動への参加及び協力の推進。 ○様々なメディアを利用した活動内容に係る広報活動を積極的に行う。 																																	

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	成人教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	ふらの市民講座事業						
事業の目的・概要	○多様化する学習要求に対応した講座や社会的課題に関する教室等を開設する ○中央公民館、山部公民館、東山公民館の講座を連携して、「ふらの市民講座」として開設	事業年度	開始		終了		
			平成16年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			829	729	799	763	762
前年度の課題	○多様化する学習ニーズに応えるとともに、趣味に片寄らない講座を開設している。市民生活の視点から必要とされる現代的課題や地域課題といった市民の必要課題についての多様な学習機会の提供について引き続き検討していく必要がある。						
当該年度の目標	○現代的課題や地域課題などの解決に向けた学習機会の充実と提供						
事業の実施状況	○ふらの市民講座 25講座 全58回 延671名参加 中央公民館 ・子ども対象～ 2講座 全11回 延118名 ・成人対象～ 9講座 全14回 延113名 ・家庭教育(親子対象)～ 2講座 全 2回 延 20名 ・女性対象講座～ 1講座 全12回 延163名 ・自主企画講座～ 山部公民館・生涯学習センター ・成人対象～ 6講座 全10回 延 85名 ・全世代対象～ 3講座 全 7回 延159名 東山公民館 ・成人対象～ 2講座 全 2回 延 13名						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証 ○講座終了後にアンケートを実施し、学習ニーズの把握に努めている。 ○学習した成果を地域で生かすことにより地域の教育力の向上に寄与している。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○多様化する学習ニーズに応えるとともに、趣味に片寄らない市民生活の上で必要とされる現代的課題や地域・行政課題といった市民の必要課題についての学習機会の提供など、引き続き検討していく必要がある。						
今後取り組み	改 善 策						
	○市民の学習ニーズ及び現代的課題や地域課題を的確に把握し、関係部署・機関・団体等との連携をしながら、より豊かで多様性に富んだ講座を企画する。 ・現代的課題～社会生活を送る上での様々な課題の中で、特に現代に生きる市民として学んでおくべき課題 ・地域課題～「まちづくり」、「家庭や地域の教育力」などに係る課題						

Ⅲ 平成 28 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	高齢者教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	ことぶき大学運営事業						
事業の目的・概要	○自らの健康に気を配り、喜びと生きがいのある人生観の確立と家庭及び社会における高齢者としての役割を認識して、これまでの豊富な経験と知識を社会に生かすとともに自らの生活向上に役立てる。 ○富良野校、山部校、東山校の3校が地域の実情に根ざした学習活動を展開している。	事業年度	開始	終了			
			昭和47年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			1,012	982	1,012	955	967
前年度の課題	○新入生の確保に様々な取組を行っているが、入学生が減少傾向にあるので、引き続き学生の確保に努める必要がある。 ○近年、個々で趣味や軽スポーツ等に親しむ傾向にあることから、楽しく魅力ある大学作りに努めるとともに、在校生による勧誘宣伝できる環境づくりが必要。						
当該年度の目標	○高齢者自身が学びあえる自主的な学習活動の推進 ○趣味、文化活動などのグループ、サークルの育成 ○自主的に学習する意欲を高める学習環境の整備						
事業の実施状況	○講話、クラブ学習、教科別学習など年間30日程度の学習を行う ○3校合同学習の実施：講話、運動会、主張実践発表交流会等 ○在籍者数 本科 45名 大学院17名 研究科14名 計 76名 ・富良野校～学習日数31日 本科 27名 大学院15名 研究科7名 計 49名 (出席率87.5%) ・山部校～学習日数28日 本科 13名 大学院2名 研究科6名 計 21名 (出席率85.7%) ・東山校～学習日数29日 本科 5名 大学院 0名 研究科1名 計 6名 (出席率86.5%)						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後の取組み	今後の課題						
	○新入生の確保に様々な取組を行っているが、入学生が減少傾向にあるので、引き続き学生の確保に努める必要がある。 ○近年、個々で趣味や軽スポーツ等に親しむ傾向にあることから、楽しく魅力ある大学作りに努めるとともに、在校生による勧誘宣伝できる環境づくりが必要。						
	改善策						
	○ニーズを把握するために学生との話し合いを充実し、より魅力ある学習内容を検討する。 ○各メディアを利用した、ことぶき大学の活動の情報発信に努める。 ○公開学習日や学習内容の成果を発表する機会を通じ、ことぶき大学への理解を深めてもらう。 ○他大学(沿線)との文化・スポーツなどの交流を図る。						

Ⅲ 平成 28 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	文化財保護	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	文化財保護啓蒙・普及活動						
事業の目的・概要	○市内外の文化財、史跡、博物館見学など文化財保護のための普及・啓発活動を推進する。 ○郷土に伝承された民俗芸能を保護し、その活動の奨励に努める。 ○民俗芸能の活動拠点施設の効果的運用を図る。	事業年度	開始	終了			
			昭和43年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			3,429	3,358	902	898	1,435
前年度の課題	○郷土芸能保存団体会員の高齢化と会員の減少による後継者の育成。						
当該年度の目標	○蒸気機関車の維持管理を保存団体の解散に伴い外部委託化する。 ○郷土芸能保存団体の伝承活動と後継者育成に対する支援を継続する。 ○民俗芸能の活動拠点施設として郷土芸能伝習館の効果的運用を継続する。						
事業の実施状況	○蒸気機関車の維持管理の外部委託化(委託業者～(株)東洋実業富良野営業所) ○埋蔵文化財保護のための事前協議・所在確認調査 ・道営農地整備事業扇山北地区 ・富良野御料ニュータウン造成 ○市指定文化財の保護 「富良野獅子舞」「北海道中央経緯度観測標」 「北海道大学第八農場富良野成墾記念碑」「北海道大学第八農場山部成墾記念碑」 ・目視による現状確認調査を4/26実施し、説明看板の文字の薄れの進行を認める ○郷土芸能保存団体の活動支援 ・市費補助金～富良野獅子舞保存会 180千円、富良野弥栄太鼓保存会 344千円 山部獅子舞保存会 72千円 ○郷土芸能伝習館の効果的活用 ・指定管理者である富良野市郷土芸能伝習館運営委員会による円滑、効果的な管理運営 (利用団体:富良野弥栄太鼓保存会、富良野獅子舞保存会)						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証 ○郷土芸能保存団体への財政的支援や活動拠点の確保により民俗芸能の保護と活動の奨励に一定の効果をあげていると思われるが、会員減少・後継者不足の解消には至っていない。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○郷土芸能保存団体会員の高齢化と会員の減少による後継者の育成 ○市指定文化財の説明看板の修繕						
	改 善 策						
	○郷土芸能保存団体の伝承活動と後継者育成に対する支援を継続する。 ○文化財見学会等の実施による文化財保護思想の普及啓発活動の推進						

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	博物館	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	郷土学習資料発行事業						
事業の目的・概要	○郷土の自然・歴史・文化に関する理解を深めるため、調査研究活動を行い、その成果を冊子として刊行し、市民の学習活動に資する。 ○富良野市市制施行50周年記念事業として実施する。	事業年度	開始		終了		
			平成28年度		平成28年度		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			—	—	—	—	788
前年度の課題	【新規点検・評価事業】						
当該年度の目標	○平成9年発行「富良野の自然に親しむ 鳥沼公園編」の改訂版を発行し、郷土の自然に親しみ、豊かな自然環境を将来へ引き継ぐための手引きとして活用する。 ○博物館の観察会や調査活動に基づき、この間に得られた新知見を加えて編集する。						
事業の実施状況	○タイトル 富良野の自然シリーズNo.4 富良野の自然に親しむ『鳥沼公園をめぐる』 ○発行 平成28年7月10日 A4判 96頁 1,000部 ○編集 富良野市博物館、富良野の自然に親しむ会 ○配布 庁内、市関係施設、市内小中高校、沿線教育委員会、道内博物館、近郊道の駅、市立富良野図書館、道立図書館、国立国会図書館、博物館ボランティア、執筆者等 ○一般販売 500円/冊						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証
	達成度	—	—	—	—	A	
	効果度	—	—	—	—	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○継続的な調査研究活動を行い、史実を発掘するとともに現在の事象を記録保存し、集積したデータをもとに学習資料として刊行していく必要がある。						
今後取り組み	改 善 策						
	○自然や郷土史の研究団体等と連携協力し、調査研究活動を継続して実施する。						

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	博物館	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	博物館活動推進事業						
事業の目的・概要	本市の自然、歴史、文化についての調査研究、資料の収集展示保存、啓蒙普及等の博物館活動を推進する。	事業年度	開始		終了		
			昭和43年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			1,191	1,190	1,196	1,141	1,137
前年度の課題	<p>○市民の学習ニーズの把握に努めるとともに、本市の財産である自然や文化財をテーマにした活動を展開する中で、地域資源としての価値を再認識できるような事業を展開していく必要がある。</p> <p>○美術アート系の講座は学習内容の工夫・多様化を図り、新たな切り口で美術の楽しさを発信できる事業に取り組むとともに、市内の芸術家と協働しながら芸術文化の推進を図る。</p>						
当該年度の目標	<p>○郷土の自然・歴史・文化・芸術等に関する講座・講演会をふらの市民講座とも連携をとりながら開催し、市民の学習意欲の啓発を図る。</p> <p>○事業の事前PRや開催報告をホームページや広報紙、展示等で情報発信する。</p>						
事業の実施状況	<p>○特別展・企画展等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第29回特別展「小野州一展 アートのひろがり」4/23～6/26 観覧者1,083名 ・第30回特別展「富良野盆地の原風景 鳥沼公園」7/23～9/25 観覧者1,365名 ・富良野アートギャラリー絵画展「2016COLLECTION GALLERY」11/19～3/5 1,565名 ・企画展「104年間ありがとう!島ノ下駅展」2/18～3/13 ハイランドふらの 3,072名 3/14～4/2 生涯学習センター 582名 <p>○講演会「東京大学北海道演習林～富良野から世界への発信」8/30 参加者72名(共催) 「地域と共に歩むサロベツ自然再生」9/3 14名</p> <p>○見学会「東京大学北海道演習林公開セミナー」6/19 参加者55名(共催)</p> <p>○絵画ワークショップ「アートを楽しもう!」全4回 7/2・11/19・12/28・2/18 延59名</p> <p>○小中学校等の学習支援・出前講座(山部小・樹海小・鳥沼小・扇山小・東小・富良野小・富良野市教育研究会理科班・富良野高校・富良野看護専門学校)</p> <p>○インターンシップ受入れ(樹海中学校2年生 1名 10/26・27 富良野高校1年生 2名 11/1・2)</p> <p>○博物館資料の貸出し 全9件(富良野西中・布礼別小・麓郷小・樹海小・富良野小・富良野市東山支所・テレビ番組制作ロントラ(株)・奈良県吉野町広報広聴室・(株)札幌映像プロダクション)</p>						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証
	達成度	B	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今後の課題						
	<p>○郷土の自然や文化財を地域資源として調査研究し、成果の教育普及に努め、価値を再認識できるような事業を展開していく。</p> <p>○美術アート系の講座は協力講師の拡大を図り、新たな切り口で美術の楽しさを発信できる事業を企画する。</p>						
今後の取り組み	改善策						
	<p>○時代のニーズ、市民ニーズを汲み取った事業とともに、市民に伝えるべき普遍的なテーマも視野に事業展開を図る。</p> <p>○事業の事前PRや開催報告をホームページや広報紙、展示等で情報発信する。</p>						

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	博物館	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	自然体験・環境学習事業						
事業の目的・概要	○自然や環境への理解を深める取り組みを推進する。 ○自然体験学習や森林を活用した事業を実施する。	事業年度	開始	終了			
			昭和51年度	継続			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			博物館活動推進事業に包含				
前年度の課題	○自然体験活動を推進する人材の確保、育成に努める必要がある。 ○地域の稀少な自然のみならず身近な自然環境についてもその現状を把握し、将来的な保全・活用を図るため継続的に調査活動に取り組む必要がある。 ○郷土学習資料として、市内の身近な自然について解説したガイドブックを整備する。						
当該年度の目標	○地域の自然環境について理解を深めるため、自然観察会や調査活動で得られた資料やデータを展示や学習資料作成等に活用する。 ○自然体験や環境学習を通して人と自然の関わり方、郷土愛の高揚、自然保護思想の啓蒙を図る。 ○関係諸機関や市民団体等の協力を得ながら事業を推進していく。						
事業の実施状況	○自然観察会の開催 「富良野の自然に親しむ集い」全5回 延参加者166名 ・6/12蝶の不思議 ・7/24鳥沼公園ナイトウォーク ・8/12ペルセウス座流星群観望会 ・10/16紅葉狩りと化石観察ツアー ・3/26鳥沼冬鳥ウォッチング ○自然講演会の開催 「地域と共に歩むサロベツ自然再生」9/3 参加者14名 ○ふらの森の教室の開設 展示、自然観察ガイド ○小中学校等の環境教育への指導・協力 (山部小7回、樹海小1回、鳥沼小1回) ○自然環境保全活動 「オオハンゴンソウ抜き取り作戦in鳥沼」、「山川草木を育てる集い植樹祭(鳥沼公園)」、 「太陽の里ホテルの里づくり・ヘイケボタル生息調査」 ○遊々の森「太陽の里・ふれあいの森」自然観察コースの活用と整備(上川南部森林管理署との協定) ○東大演習林神社山自然観察路春季・秋季一般公開の共催(東京大学北海道演習林との交流に関する協定に基づく)						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証 ○郷土の身近な自然を題材として自然体験活動を実施することによって、市民の環境教育に寄与している。 ○継続的な調査活動により蓄積されたデータを展示や学習資料等で公開・活用することで、郷土の自然について認識し理解を深めることができた。
	達成度	B	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○市民参加型の自然体験活動をととして、年代を問わず自然に興味関心を寄せる人材の発掘と育成に努める必要がある。 ○地域の自然環境の変化を知り、将来的な保全と活用を図るために、身近な自然について継続的な調査活動が必要である。						
	改 善 策						
今後取り組み	○自然観察や体験の楽しさを実感できるような事業展開を図り、より多く子どもたちや市民が身の回りの自然について考える機会を持つ。 ○関係諸機関や市民団体等の協力を得ながら自然体験活動や調査研究活動を推進していく。						

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	文化振興	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	山部菊の会補助金						
事業の目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> ○「山部菊花展」開催をはじめとする、山部菊の会活動に対する補助。 ○会は昭和56年3月発足以来、品種改良等の研究、研修見学会、小学生や市民を対象とした菊づくり指導等の活動を展開している。 ○後継者の育成を目指すとともに、地域に根付いた貴重な伝統文化としての「山部菊花展」の継承・発展を図り地域の活性化に資する。 	事業年度	開始	終了			
			平成25年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			—	300	300	300	300
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○会員の高齢化と後継者不足により、会の活動低下が懸念される。 ○後継者の育成・確保による会の活性化と伝統技術の継承が課題。 						
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統文化の継承、地域の活性化及び生涯学習の取り組みとして活動の支援を継続する。 ○市民講座の開催をとおして菊づくりの楽しさやノウハウをPRしていく。 ○沿線の愛好家との協力関係も視野に入れた活動を模索する。 						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○山部総合文化祭「第36回山部菊花展」の開催（11/1・2・3 出展数460点） ○ふらの市民講座「菊づくり体験講座」の開催 全4回 参加者～一般市民4名、菊花展へ出品 <p>※山部菊の会の事業は以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○山部総合文化祭での「山部菊花展」の開催 ○ふらの市民講座「菊づくり体験講座」の講師 ○山部小学校の菊づくり指導、菊花展への出品 ○会員の青田見学会の開催 ○視察研修会 ○菊花資材の取りまとめ・配布 ○菊苗の配布 						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証
	達成度	—	B	B	B	B	
今後取り組み	今後の課題						
	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢化による会員の減少、後継者の発掘・育成による会の活性化と伝統技術の継承が依然として課題である。 ○沿線の愛好団体は中富良野町に残るのみ（会員は数名程度）で、共同の取り組みの機運は高まらない。 						
改善策							
<ul style="list-style-type: none"> ○伝統文化の継承、地域の活性化及び生涯学習の取り組みとして、菊花展開催等の活動の支援を継続する。 ○市民講座をとおして菊づくりの基礎や楽しさを伝える。 							

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	森林環境教育	担当課	生涯学習センター					
事務事業名	森林学習プログラム推進事業							
事業の目的・概要	○東京大学北海道演習林の恵まれた森林資源を活用し、市内小中学生を対象に森林環境教育を推進する。 ○市第5次総合計画後期基本計画及び市総合戦略の実施事業。重要業績評価指標（KPI）森林学習プログラム参加校 15校/年（H31） ○文科省「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業委託金」（H27・28）の採択 ○森林学習プログラムの構築と森林ガイドの発掘・育成を東大演習林の監修の下、北海道教育大学旭川校の協力を得て行う。	事業年度	開始	終了				
			平成27年度	継続				
事業費(決算)(単位:千円)		事業費(決算)(単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28	
			—	—	—	(国費)479	3,672 (内国費1,483)	
前年度の課題	○プログラム案を北海道教育大学旭川校の協力を得て作成する。 ○プログラム案をモデル校で試行し、検討会議での意見を踏まえて改善を図る。 ○森林学習プログラムを28年度末までに完成する。 ○森林ガイド候補者を発掘し、育成のための講座や研修会を開催する。							
当該年度の目標	○プログラム案をモデル4校で試行し、ガイドや検討会議構成団体の意見を踏まえプログラムを改善し完成する。 ○森林ガイド候補者を発掘し、育成のための講座や研修会を開催する。 ○事業の進捗状況を広報紙やホームページ等を通じて市民に周知していく。							
事業の実施状況	○プログラム案を東大演習林の監修のもと教育大旭川校理科教育教室、学識経験者の協力で作成 ○プログラム案をモデル4校で試行 延131人参加 ・7/14 山部小学校5年生 8人 ・9/8 富良野小学校4年生 93人（9/1 事前学習） ・10/13 樹海小学校3・4年生 11人（10/5 事前学習） ・10/19 山部中学校1・2年生 19人（荒天により事前学習のみ） ○第2回「ガイドの集い」の開催 12/3 参加者14名 ・プログラム試行の振り返りと意見交換 ○第2回「森林学習プログラム推進事業検討会議」の開催 2/24 参加者32名 ・構成18団体（行政、教育委員会、市内小中学校、大学・研究機関、市民団体） ・平成28年度事業報告とプログラム改善に係る意見交換、次年度事業計画 ○文部科学省委託事業完了報告書の提出 ・成果物「森林学習プログラムワークシート」小学大規模校、同小規模校、中学小規模校用 ○森林ガイドの育成 座学及び野外研修 5～3月 全18回 延204人参加 ○広報紙「ふらの森の教室だより」の発行 No.4～11 ○フィールドの環境整備（危険木伐採、歩道草刈り等）							
評価			H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証
	達成度	—	—	—	B	B	○4校での試行を経てプログラムの大枠を作成したが、関係者の意見を参考に更なる改善を図る必要がある。 ○森林ガイドを一定数発掘し通年で育成に取り組むことができたが、更なる発掘と知識技能の向上を図る必要がある。	
効果度	—	—	—	B	B			
今後の取り組み	今後の課題							
	○プログラムの実践校を平成29年度は8校に拡大する。 ○今年度作成したプログラムの改善を図り、定番プログラムを完成する。 ○森林ガイド候補者の発掘を進め、育成のための講座や研修会を継続して開催するとともに、ガイド認定制度を設けてレベルの維持向上に努める。 ○神社山の市民公開のあり方を東大演習林と協議する。							
今後の取り組み	改善策							
	○プログラム実践校へのアンケート、検討会議や森林ガイドとの意見交換により事業の改善を図る。 ○東大演習林との連携を密にし、事業のスムーズな推進に努める。 ○事業の進捗状況を広報紙やホームページ等を通じて市民に周知していく。 ○先進地の事例について情報の収集・分析に努める。							

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	図書館運営管理事業						
事業の目的・概要	<p>【目的】図書館の維持管理と市民に対する読書活動等を通じた生涯学習の場の提供</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図書館の運営 ○図書館利用者団体等への施設貸出 ○図書館利用促進のためのイベント主催 ○インターネット利用端末の設置 ○図書館情報の提供 	事業年度	開始	終了			
			昭和47年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
			20,896	22,198	20,390	26,160	32,989
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館利用者団体、読書推進ボランティアの育成及び団体間連携の維持発展 ○図書館公式ホームページの内容検証 ○施設の適切な維持管理及び修繕改修による施設の管理運営 ○利用者サービスのさらなる向上のため、開館日数と開館時間の見直し検討 						
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館利用者団体及び読書推進ボランティアの活動状況について、館内掲示やチラシ、図書館ホームページ、ラジオ広報等を活用して、地域住民への情報提供を行う。 ○図書館ホームページの利便性を向上させるとともに、速やかな更新を行う。 ○計画的な施設修繕による、安全で快適な環境整備を行う。 ○開館日数増と開館時間延長の試行を実施する。 						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館の運営 開館日数：286日 利用登録人数：13,574名 貸出人数：33,527名 貸出冊数：160,157冊 図書館利用者団体会議2回 図書館ボランティア登録人数41名 ○利用状況 多目的ホール及びサークル室：326回延3,993名 展示ホール：8回100日1,105名（「子どもの図書館まつり」・「図書館まつり」を除く） ○図書館まつり 期間：10月1～16日・29日 来場人数：6,485名 ○冷房設備改修工事 ○インターネット予約登録人数：157名 ○開館日数増と開館時間延長の試行 開館日数：月曜日が祝日の場合も翌日を開館 5日間 開館時間：6月と10月の毎週水曜日を20時まで開館 9日間 18時間 						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今後の課題						
	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館利用者団体、読書推進ボランティアの育成及び団体間連携の維持発展 ○図書館情報システムの機能見直し ○施設の適切な維持管理及び修繕改修による施設の管理運営 ○利用者サービスのさらなる向上のため、開館日数と開館時間の見直し検討 						
	改善策						
	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館利用者団体及び読書推進ボランティアの活動状況について、館内掲示やチラシ、図書館ホームページ、ラジオ広報、フェイスブック等を活用して、地域住民への情報提供を行う。 ○図書館情報システムを更新し、読書推進機能を充実させる。 ○計画的な施設修繕による、安全で快適な環境整備を行う。 ○開館日数増と開館時間延長の試行を継続実施する。 						

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	図書資料整備事業						
事業の目的・概要	【目的】 地域住民の生涯学習の基礎となる図書資料の収集・提供 【概要】 ○社会情勢・利用者ニーズ・地域特性に対応した新刊書・新聞雑誌等の選択と収集 ○視聴覚ライブラリー資料の収集 (富良野地区広域教育圏振興協議会)	事業年度	開始 終了				
			昭和47年度 継続				
	事業費(決算) (単位:千円)	H24 6,582	H25 5,588	H26 5,562	H27 6,702	H28 5,852	
前年度の課題	○新鮮で適切な資料構成の維持 ○沿線市町村を始めとする、他町村図書館との連携強化 ○利用者ニーズに適合した収集内容の再整理						
当該年度の目標	○利用者のニーズに的確に応えつつ、バランスの取れた図書資料の整備を図るため、適切な更新と除籍を進める。 ○録音図書や大活字本など、高齢者や障がい者に対応した図書資料の整備を進める。						
事業の実施状況	○登録購入書籍：一般書2,107冊、児童書601冊、雑誌1,013冊、新聞8紙 ○利用者の学習及び調査研究のための参考図書や専門的資料の収集 ○地域の郷土資料及び行政資料の収集による、地域の特色ある知的財産の蓄積 ○CDとDVDの館内視聴 ○北海道新聞データベースの提供 ○視聴覚ライブラリー：DVDソフト40本購入（富良野地区広域教育圏振興協議会） ○録音図書：52本購入（所蔵数538本）、大活字本：43冊購入（所蔵712冊）						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証 ○社会情勢・利用者ニーズを把握し、様々な図書情報を活用する中で、適切に新刊書を選択と収集を行っている。 ○録音図書や映像資料の館内視聴や、北海道新聞データベースの閲覧サービスなど、図書以外のサービス提供も行っている。
	達成度	B	B	B	A	A	
	効果度	B	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○新鮮で適切な資料構成の維持 ○沿線市町村を始めとする、他町村図書館との連携強化 ○利用者ニーズに適合した収集内容の再整理						
	改 善 策						
	○利用者のニーズに的確に応えつつ、バランスの取れた図書資料の整備を図るため、適切な更新と除籍を進める。 ○録音図書や大活字本など、高齢者や障がい者に対応した図書資料の整備を進める。						

Ⅲ 平成 28 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	読書活動推進事業						
事業の目的・概要	【目的】 市民の生涯学習の基礎となる図書資料及び図書情報の提供 【概要】 ○図書資料情報の多面的な提供と積極的な貸出 ○相互貸借システムの活用による他図書館との連携貸出	事業年度	開始	終了			
			昭和47年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
		-	-	-	-	-	
前年度の課題	○社会の変化や利用者ニーズに対応した一層効果的な図書資料及び多様な図書情報の提供。						
当該年度の目標	○インターネットや専門誌など様々な媒体を活用し、図書資料情報を的確に把握することにより、利用者からのリクエストなど、生涯学習ニーズに必要な図書資料を提供する。 ○相互貸借システムの活用による、他図書館との連携貸出を促進する。						
事業の実施状況	○インターネット図書検索システム、館内テーマ展示、図書館だより、広報紙による情報提供 ○リクエスト数：4,378冊（自館窓口2,432冊＋自館web1,112冊＋他館借受834冊） ○相互貸借：他図書館からの借受834冊 他図書館への貸出334冊						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証 ○市民一人当たりの貸出冊数は、6.77冊と高い水準にあり、利用登録者数も13,574人となっている。
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○社会の変化や利用者ニーズに対応した一層効果的な図書資料及び多様な図書情報の提供。						
	改 善 策						
	○インターネットや専門誌など様々な媒体を活用し、図書資料情報を的確に把握することにより、利用者からのリクエストなど、生涯学習ニーズに必要な図書資料を提供する。 ○相互貸借システムの活用による、他図書館との連携貸出を促進する。						

Ⅲ 平成 28 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	子どもの読書推進事業						
事業の目的・概要	【目的】 すべての子どもたちが読書に親しみ、いつでもどこでも読書できる環境づくり 【概要】 ○ブックスタート（乳児7ヶ月相談時） ○ブックスタートプラス（1歳6か月） ○各種おはなし会 ○こどもの図書館まつり ○学校図書館支援	事業年度	開始 終了				
		事業費(決算) (単位:千円)	昭和47年度	継続			
		H24	H25	H26	H27	H28	
		705	670	672	734	851	
前年度の課題	○「子どもの読書推進プラン【第2次計画】」の具体的取組。 ・家庭における読書活動の啓蒙 ・地域・図書館における読書活動の推進 ・学校図書館への支援						
当該年度の目標	○ブックスタートなど、家庭における読書活動の推進事業を継続するとともに、1歳6カ月時にブックスタートプラス事業を開始する。 ○利用者カードの年齢制限を廃止し、0歳から発行する。 ○ブックトラック事業の拡充など、学校図書館環境の改善に向けた活動を継続する。 ○団体貸出制度の拡充及び周知を行う。						
事業の実施状況	○ブックスタート：12回147名配布（ボランティア団体と図書館の共同実施） ○土曜日のおはなし会：12回448名（子ども232名＋保護者135名＋ボランティア81名）参加 ○えいごのおはなし会：10回311名（子ども164名＋保護者96名＋ボランティア51名）参加 ○「どんぐり」のおはなし会：42回607名（子ども257名＋保護者166名＋ボランティア184名）参加 ○子どもの図書館まつり：5月11～15日 来館者1,890名 実行委員会主催 ○学校図書館支援：ブックトラック事業 小学校8校240冊、中学校2校90冊、児童書団体貸出8,782冊、 学校図書館サポートブック1校63冊（北海道立図書館事業） ○ボランティア研修会：4月28日開催 8名参加（講師：石黒誠氏） ○ボランティア視察研修：11月24日実施 8名参加（恵庭市立図書館、岩見沢市立図書館） ○児童館巡回貸出：5館50冊						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取組み	今後の課題						
	○「子どもの読書推進プラン【第2次計画】」の具体的取組。 ・家庭における読書活動の啓蒙 ・地域・図書館における読書活動の推進 ・学校図書館への支援						
	改善策						
	○ブックスタートやブックスタートプラスなど、家庭における読書活動の推進事業を継続する。 ○図書館情報システム更新による新たな子どもの読書推進サービスの提供を行う。 ○学校図書館環境の改善に向けた活動を継続する。						

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	図書館授乳室整備事業						
事業の目的・概要	【目的】 子育て中の保護者が、外出しやすい環境を整備する。 【概要】 図書館内に、授乳設備を備えた子育て支援スペースを設置する。	事業年度	開始	終了			
			平成28年度	平成28年度			
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
		-	-	-	-	1,686	
前年度の課題	平成28年度単年度事業						
当該年度の目標	○現在は、授乳専用スペースがなく、図書館を利用しづらいため、いつでも遠慮なく安心して利用できる設備を設置することにより、子育て中の保護者が外出しやすい環境をつくる。						
事業の実施状況	○利用開始：平成28年8月2日 ○事業費：1,685,664円 内訳：消耗品 27,000円（おむつダストボックス・荷物入れ） 器具備品 287,064円（授乳ソファ・授乳チェア・ベビーベッド） 施設修繕料 1,371,600円（改修工事） ○平成28年度利用者数：31組（8カ月）						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証 ○0歳からの利用登録開始、ブックスタートプラスの開始、赤ちゃん絵本コーナーの充実など、各種事業との複合的な効果により、乳幼児の貸出冊数年間18,590冊に結び付いた。
	達成度	-	-	-	-	A	
	効果度	-	-	-	-	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	平成28年度単年度事業						
	改 善 策						
	平成28年度単年度事業						

Ⅲ 平成 28 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター					
事務事業名	安全安心な学校給食の提供							
事業の目的・概要	衛生管理の徹底を図り、経年劣化した調理機器等の更新など施設設備の整備を推進するとともに、食中毒の発生や異物混入を防止し、安全で安心、美味しい学校給食の安定供給に努める。	事業年度	開始	終了				
			継続					
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28	
			241,157	266,326	251,202	245,923	240,914	
前年度の課題	<p>○施設は各所に経年劣化が見られ、大型機械及び厨房調理機器等も耐用年数を経過している。突発的な故障は給食提供中止を招くため、今後も計画的な設備機器の改修、更新を進める必要がある。</p> <p>○給食機器の停止や交通障害による輸送不能など、給食提供中止となった場合の代替給食の対応。</p>							
当該年度の目標	<p>○安全・安心な学校給食の推進</p> <p>○安定した給食の供給</p>							
事業の実施状況	<p>○富良野市・中富良野町・占冠村の小学校16校、中学校9校に年間195回を基準として、米飯週3回、パン・麺各週1回の給食を提供</p> <p>○「学校給食衛生管理の基準」を遵守した学校給食の運営</p> <p>○学校給食献立委員会による献立内容の改善と協議(10回開催)</p> <p>○調理員を対象に安全衛生管理指導の実施(1学期、2学期開始時、講師:栄養教諭)</p> <p>○沿線調理員及び食品納入業者合同の衛生管理研修会実施(7/26、講師:栄養教諭)</p> <p>○HPを活用した給食献立表及び使用食材産地の公表</p> <p>○施設設備及び調理機器等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食器洗浄機コンペアー交換修理 4,101,000円 ・食器洗浄機制御装置取替修理 5,184,000円 ・厨房内蛍光灯LED交換修理 711,720円 <p>○備品等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真空断熱食缶 5缶 399,384円 ・自動床洗浄機 1台 428,760円 							
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証	
	達成度	B	A	A	A	A		○厨房調理機器、給食供給用備品の経年劣化による突発的な故障も、逐次更新及び改修を進め、継続して安全で安心な学校給食の提供が図られた。
	効果度	A	A	A	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題							
	<p>○施設は各所に経年劣化が見られ、大型機械及び厨房調理機器等も耐用年数を経過している。突発的な故障は給食提供中止を招くため、今後も計画的な設備機器の改修、更新を進める必要がある。</p> <p>○給食機器の停止や交通障害による輸送不能など、給食提供中止となった場合の代替給食の対応。</p>							
	改 善 策							
<p>○安定した給食提供のため、施設設備、大型機器等の状態を把握し、計画的な更新を進める。</p> <p>○不測の事態に備えた代替食の配置等、非常時の対応を検討する。</p>								

Ⅲ 平成28年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター				
事務事業名	「富良野ふるさと給食」の実施						
事業の目的・概要	地元でとれた旬の食材や特産品を子どもたちに伝え、食べ物が身近になることで「地産地消」の意味や意義を学習し、食の大切さや食材の生産・加工・流通を学ぶ機会とする。 ・地場の食材 9割使用 ・学校農園野菜の活用 ・地産地消の啓発	事業年度	開始		終了		
			平成16年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28
—	—		—	—	—		
前年度の課題	○数多くの地場産食材が使用可能な時期での学校行事等に配慮した日程の設定。 ○使用食材の確保と提供者の開拓。 ○生産者の顔が見える給食提供のための新たな取り組みの検討。						
当該年度の目標	○食の大切さや感謝する心を育む食育の推進 ○地産地消の推進						
事業の実施状況	○9月6日～9日実施（4日・13回目） ○沿線自治体、企業、農園等の協力により地元食材を確保 ○「給食だより」による地産地消の啓発 ○ふるさと給食特別号「ふるさと給食2016 ー地域の食材で心と体を育むー」発行 ○配送市町村理事者、議員、教育関係者等の給食試食会開催 ○終了後、学校へアンケート実施						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証 ○開催時期を早めたことで、様々な地元産野菜が活用でき、地域農業への理解と地産地消の推進が図られている。 一方、実施後のアンケートでは9月だけに集中せず、季節の旬の食材を提供してほしいという意見があった。
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○数多くの地場産食材が使用可能な時期での学校行事等に配慮した日程の設定。 ○使用食材の確保と提供者の開拓。 ○生産者の顔が見える給食提供のための新たな取り組みの検討。						
	改 善 策						
○協力農家等の情報収集と、生産者と児童生徒との交流機会により「顔が見える学校給食」を実施し、地域農業への理解と地産地消の意義を学ぶ機会としての充実を図る。 ○各校の行事予定等を把握し、実施日程を調整する。 ○実施後のアンケート調査を考慮し、「ふるさと給食」を2日とし、各月に地元の旬の食材や地場産品などを提供する「ふるさと食材日」を設定していきたい。							

Ⅲ 平成 28 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター				
事務事業名	食に関する指導の推進						
事業の目的・概要	学校給食を「生きた教材」として活用し、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に付け、食事を通して自らの健康管理ができるようにする。また、楽しい食事や給食活動を通じ豊かな心を育成する。 ・栄養教諭による食の指導（配置校・未配置校）	事業年度	開始	終了			
			継続				
事業費(決算) (単位:千円)			H24	H25	H26	H27	H28
			—	—	—	—	—
前年度の課題	○食育の重要性について周知するとともに、栄養教諭及び管理栄養士の専門性を活かし、各学校の要望に沿った食の指導を進める必要がある。 ○各学校の養護教諭等と連携を図り、食べ残しゼロ運動を含め、今後も継続して食育指導を推進する必要がある。						
当該年度の目標	○食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける。 ○「食べ残しゼロ運動」の推進						
事業の実施状況	○2名の栄養教諭による食の指導 ・配置校 富良野小学校 ～ 全学年全教室で食育授業を実施 富良野西中学校 ～ 家庭科、保健体育の時間を中心に全学年指導 ・未配置校 23校の内10校で指導（扇山小、東小、布部小、布部中、布礼別小、山部小、山部中、西中小、本幸小、中富中） ○社会見学における食の指導（樹海小、山部小、中富小） ○年間指導計画作成及び給食だより発行 ○年間指導計画に基づく給食指導要領作成 ○献立委員会等との連携による献立の見直し実施 ○保護者向けの食の講話実施（山部小、布礼別小）						
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証 ○未配置校へは、指導依頼があった全ての学校の要望に応え、児童生徒や保護者へ指導を行った。 ○管理栄養士、養護教諭、給食担当教職員の連携し、効果的な指導体制の確保につながった。
	達成度	B	B	B	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後組みの取組	今 後 の 課 題						
	○食育の重要性について周知するとともに、栄養教諭及び管理栄養士の専門性を活かし、各学校の要望に沿った食の指導を進める必要がある。 ○各学校の養護教諭等と連携を図り、食べ残しゼロ運動を含め、今後も継続して食育指導を推進する必要がある。						
	改 善 策						
○学級担任、養護教諭、給食担当教職員と連携を図り、食に関する指導を推進する。 ○栄養教諭未配置校の食の指導は、学校からの依頼に随時対応していく。							

Ⅲ 平成 28 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター																																							
事務事業名	学校給食費の徴収																																									
事業の目的・概要	給食費の徴収については、「児童手当」から天引きできる仕組みを活用するなど、給食費滞納の未然防止に努め、円滑な学校給食の運営を図る。	事業年度	開始	終了																																						
			継続																																							
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28																																			
			—	—	—	—	—																																			
前年度の課題	○高い収納率は維持しているが、同一世帯が未納を繰り返す状況は変わらず、引き続き学校及び構成市町村の教育委員会と連携を図り、未納防止、滞納解消に向けた対策が必要。																																									
当該年度の目標	○給食費収納率の向上及び滞納額の圧縮																																									
事業の実施状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>調定額(円)</th> <th>収入済額(円)</th> <th>未収入額(円)</th> <th>収納率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度給食費</td> <td>138,887,485</td> <td>138,887,485</td> <td>0</td> <td>100.00</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">内訳</td> <td>富良野</td> <td>106,162,870</td> <td>106,162,870</td> <td>0</td> <td>100.00</td> </tr> <tr> <td>中富良野</td> <td>27,075,290</td> <td>27,075,290</td> <td>0</td> <td>100.00</td> </tr> <tr> <td>占冠</td> <td>5,649,325</td> <td>5,649,325</td> <td>0</td> <td>100.00</td> </tr> <tr> <td>過年度給食費</td> <td>579,559</td> <td>174,374</td> <td>405,185</td> <td>30.09</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>139,467,044</td> <td>139,061,859</td> <td>405,185</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>						区分	調定額(円)	収入済額(円)	未収入額(円)	収納率(%)	28年度給食費	138,887,485	138,887,485	0	100.00	内訳	富良野	106,162,870	106,162,870	0	100.00	中富良野	27,075,290	27,075,290	0	100.00	占冠	5,649,325	5,649,325	0	100.00	過年度給食費	579,559	174,374	405,185	30.09	合計	139,467,044	139,061,859	405,185	—
	区分	調定額(円)	収入済額(円)	未収入額(円)	収納率(%)																																					
28年度給食費	138,887,485	138,887,485	0	100.00																																						
内訳	富良野	106,162,870	106,162,870	0	100.00																																					
	中富良野	27,075,290	27,075,290	0	100.00																																					
	占冠	5,649,325	5,649,325	0	100.00																																					
過年度給食費	579,559	174,374	405,185	30.09																																						
合計	139,467,044	139,061,859	405,185	—																																						
	「児童手当」からの天引き申出額 0件																																									
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証																																			
	達成度	A	A	A	A	A		○学校と連携を図り、高い徴収率が維持できた。 ○滞納分は、電話や文書督促、夜間訪問徴収を行い、分割納付や児童手当からの天引き徴収など滞納解消に努めた。																																		
	効果度	A	A	A	A	A																																				
今後の取り組み	今後の課題																																									
	○高い収納率は維持しているが、同一世帯が未納を繰り返す状況は変わらず、引き続き学校及び構成市町村の教育委員会と連携を図り、未納防止、滞納解消に向けた対策が必要。																																									
	改善策																																									
	○滞納者への定期的な支払督促と、学校及び構成市町村の教育委員会との連携により家庭状況等を把握し、「児童手当」からの天引き徴収への理解を求めるなど、滞納の未然防止に努める。																																									

Ⅲ 平成 28 年度教育委員会事務事業点検・評価

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター					
事務事業名	食物アレルギーの対応							
事業の目的・概要	食物アレルギーを有する児童生徒が、他の児童生徒と同様に学校給食を楽しむことができるよう安全性を確保する。	事業年度	開始	終了				
			平成23年度	継続				
		事業費(決算) (単位:千円)	H24	H25	H26	H27	H28	
—	—		—	—	—			
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○食物アレルギー対応の明確な基準、基本的な方針の策定。 ○学校、保護者、給食センターでの食物アレルギーに対する共通認識と情報の共有。 							
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○食物アレルギーへの正しい理解と、学校、保護者との情報共有 ○安全安心な学校給食の提供 							
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○献立表に使用する食材を詳細に記載するとともに、アレルゲンとなる食材をマーキング表示し、学校及び該当する児童生徒の家庭へ事前に配布。それを基に保護者や担任の指示若しくは各自の判断で原因食材を除去する。 ○除去が困難な場合は、代替食として家庭から弁当持参。 ○牛乳アレルギー及び乳糖不耐症の児童生徒の希望者に対し、代替飲料として麦茶を提供。誤配防止のため、2学期より学校名、学年、該当者氏名を麦茶の側面に貼付し配送。 <ul style="list-style-type: none"> ・ H28年度末代替飲料提供者数 23名 							
評価		H24	H25	H26	H27	H28	達成度・効果度の検証	
	達成度	—	—	—	B	B		<ul style="list-style-type: none"> ○詳細な献立表の配布により、各自が除去すべき原因食品を把握することができた。 ○代替飲料に名前を貼付することにより、誤配防止につながった。
	効果度	—	—	—	B	B		
今後の取り組み	今 後 の 課 題							
	<ul style="list-style-type: none"> ○食物アレルギー対応の明確な基準、基本的な方針の策定。 ○学校、保護者、給食センターでの食物アレルギーに対する共通認識と情報の共有。 ※年々アレルギー体質、一方で稀ではあるが思想的な理由から特定食材を拒食という児童生徒が増えている状況あり。 							
	改 善 策							
<ul style="list-style-type: none"> ○給食の提供は安全性を最優先に、現施設で可能なアレルギー対応について方針を明確にする とともに、食物アレルギーを有する児童生徒の状態の把握に努める。 ○H29年度より教職員（常勤）に対しても代替飲料提供を進める。 								

IV 平成28年度 学校第三者評価

学校自己評価及び学校関係者評価並びに学校訪問等に基づき、各委員から出された項目に対する意見をまとめたものです。

なお、自己評価値は、評価基準を「4:実践が進み効果を上げている 3:実践が進んでいる 2:実践につとめている 1:努力を要する」の4段階とし、各学校において評価した自己評価値の全学校の平均値を記載している。

観 点	自己評価(平均) ()内は前年度
-----	----------------------

《評価領域：組織運営の状況》

＜項目：学校の組織運営の状況＞		
1	職員会議等が学校運営において有効に機能しているか	3.9(4.0)
各学校の 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各担当ごとに一覧表を活用して議題を確認し、各分掌内で事前に検討され提案されている。会議前日までに提案文書が配布され、事前に目を通すことができる。 ・校長の経営方針や重点目標等を具現化する場として、また、それらの共通理解を図る場として有効に機能し、計画的に効率の良い提案が行われている。 ・議題の集約や議案の事前配布がなされ、校長の方針等の共通理解を図る場や児童生徒の実態交流など学校運営を円滑に進めるために有効に機能している。 ・会議資料に次回の議題一覧を提示することにより、各分掌等での十分な検討の時間を確保し、過年度の反省を踏まえた具体的な改善策が提案されるよう図った。 ・各分掌の年間計画をもとに職員会議計画を作成し、担当者から計画的に効率の良い提案が行われている。 ・議題の確認を2週間以上まえから行うことで、各分掌・学年・委員会で十分に議論を重ねて提案されている。組織として提案することで、教職員の参画意識も高まっている。 ・校長の学校経営方針を周知させたり、事前の提案内容の確認等、有効に機能している。 ・各分掌や学年で事前に検討した上で提案され、さらに全教職員による活発な協議がなされ、円滑な学校運営に有効に機能している。 	
評価委員 の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップが組織運営に与える影響は大きいと思います。職員会議等で校長のビジョンを積極的に教職員に伝えてほしいと思います。 ・この項目のみ、評価が前年より低くなっているのが気になりました。職員会議は多分月1回程度行われていると思うが、事前の用意も2週間前から準備しているなど、大変な事だと思います。 	
2	勤務時間管理や職専免研修の承認状況等、サービス管理が適切に行われているか	4.0(3.9)
各学校の 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・職員動静について、常に教頭を窓口として連絡相談する体制が整っている。出勤簿等、関係書類・通知・資料等を期間を決めて確認・周知徹底を図っている。 ・日頃から打合せなどの機会を利用して教職員の不祥事の事例など、サービス規律について周知し、指導を適切に行っている。 ・教職員の共通理解のもと適切に行い、記録管理システムで正確に管理している。 ・事務主任を窓口し、休暇処理簿・旅行命令簿等の適正・迅速な処理を行った。またチーム意識の醸成に努め、相互にサービス規律を厳守する意識の確立を図った。 ・勤務時間、サービスの管理等適切に行われている。また、定期的に諸帳簿の点検を行っている。 	
評価委員 の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス遵守の指導も大切にしていきたいと思います。 	

<項目：学校と設置者の連携の状況>		
	1 設置者の示す明確な教育方針等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか	4.0(3.9)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・富良野市の示す重点目標に基づいて、教育目標や学校経営方針を設定し学校評価を行い、それを具体化する教育活動を行っている。 ・富良野市学校教育推進計画と学校教育目標・年度の重点目標をしっかり結びつけ、教育活動を推進している。 ・学校評価に富良野市学校教育の推進計画の重点項目を位置づけて取組を推進し、学校関係者評価会議で公表した。 ・市教委から示された教育方針に基づいて、年度の重点を設定し、様々な場面で職員に周知している。 	
評価委員の意見	・市の教育方針が学校の経営方針と適切に結びつけられて学校運営が行われていると思います。	
	2 学校と設置者が、児童生徒の状況や安全管理等に関する情報を適切に共有しているか	4.0(4.0)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部を中心に校内の連携を図るとともに、子どもネットワーク会議等の外部組織とも連携して迅速な安全確保ができるよう努めている。 ・いじめの実態調査や危機管理マニュアルなどを通じて、状況の的確な把握に努めている。また、教育委員会や他校と情報を共有しながら適切に対応している。 ・市教育委員会や他校（特に近隣校）との連携を密にし、速やかな情報共有を図っている。併せて、関係施設（児童養護施設）や地域自治会との日常的な情報交流を行っている。 ・いじめの実態調査、防災教育調査や危機管理マニュアルなどを通じて情報を共有している。 ・生徒指導事案や健康安全等について、管理職等と市教委がサイボウズ等を活用し、密接な情報交流と共有を行っている。 	
評価委員の意見	・児童生徒の安全確保が適切に行われていると思います。	
<項目：目標設定と自己評価の状況>		
	1 学校の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が具体的に設定されているか	4.0(3.9)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の学校評価を踏まえ、中・短期的目標に近い前期後期の期間で学力及び体力と心の達成目標を設定して、ロードマップを活用して見通しのある目標設定に心がけた。 ・前年度の学校評価の成果と課題を踏まえて目標を具体化した学校改善プランを作成し、教育活動を進めている。 ・全国学力・学習状況調査の結果分析から学校改善プランを作成し、具体策を示して教育活動を推進している。 ・7つの基本方針と具現化に向けた8つのステージ（段階的到達目標）を策定し、すべての教職員が到達度を把握・共有し、適時・適切な指導を実践することができるよう図った。 ・学校評価に富良野市学校教育の推進計画の重点項目を位置づけて取組を推進し、学校関係者評価会議で公表した。 	
評価委員の意見	・学校改善プランが教職員に周知・共有され、組織として取組みが推進されていると思います。	

	2 自己評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか	3.9(3.8)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の自己評価結果を踏まえ、すぐに改善できることは迅速に改善実施を行い、課題となる事項については次年度の改善策として教育計画及びマニフェストに示して改善に努めた。 ・重点目標に沿った7月期、12月期の全体評価、各行事反省の結果を検討・共有し、改善の方策を見いだすことにつなげた。 ・教職員の評価・保護者評価・児童アンケートの結果を基にした学校評価を行い、改善点について明確にし、次年度の計画立案に活用している。 ・教職員、生徒によるアンケートをもとに自己評価・分析を行い、学校改善に活かしている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価が適切に活用され、学校改善につなげられていると思います。 	
	3 外部アンケート等を実施し、自己評価を行う上での参考としているか	4.0(3.8)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回実施の保護者アンケート及び学校関係者評価での意見等を、自己評価実施における評価項目等に活用して自己評価を行った。 ・保護者・児童アンケートや行事ごとのアンケート結果を職員会議等で共有し、学校運営の改善を推進している。 ・自己評価（全体評価）と併せて保護者アンケート・児童アンケートを実施し、関連性に留意しながら改善策を見出した。 ・1学期末と2学期末に自己評価と児童アンケートを行い、保護者アンケートを2学期末に実施した。運動会と学校祭などの学校行事ごとに、保護者アンケートを行い、成果と課題、要望等の集約し、それらをもとに自己評価や学校行事の改善に生かすことができた。 ・保護者・生徒・教職員共通の視点でアンケートを実施して自己評価の信頼性を高めている。 ・保護者を対象とした外部アンケートを実施し、その結果を職員会議で共有し、自己評価を行う際の参考としている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価と外部評価での乖離は少なからずあると思います。意思の疎通、信頼関係の醸成に努力していただきたいと思います。 ・保護者へのアンケートは、主に児童を通じてプリント配布で行っているかと思いますが、回収率は100%に近いのでしょうか、気になります。 	

<項目：学校関係者評価の状況>

	1 学校関係者評価が自己評価の結果を踏まえて実施されているか	3.9(3.8)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価結果を資料として活用し、評価委員に説明をして、項目ごとに意見を述べてもらおうとともに、評価書に一人一人の意見等を記入していただき、改善策作成の参考にさせていただいた。 ・自己評価結果と考察を学校関係者評価委員に提示し、評価を受け、学校改善に生かしている。 ・自己評価結果をもとに東っ子サポート会議（学校関係者評価会議）を開催し、学校の状況や課題等について意見をいただいている。 ・自己評価の結果を踏まえて、より客観的に評価をすることができ、課題を明確にすることができた。 ・学校の自己評価結果を学校関係者評価委員に提示し、率直な意見等を受け、学校運営改善に生かしている。 ・学校関係者評価委員会を近隣の小学校とともに実施し、自己評価に基づき幅広い意見を聞いている。 	

2	学校関係者評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか	3.9(3.8)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価結果及び評価委員からの意見をもとにして、教育計画及び学校運営改善に反映させるよう努めた。 自己評価の適切さ・改善に向けた具体的な方策について学校関係者評価委員より評価・意見をいただき、いただいた意見をもとに、学校運営の改善に反映させている。 評価結果を真摯に受け止め、教育活動を見直したり、新たな内容を加えるなど、学校運営の改善に生かすことができた。 学校関係者評価の結果を全員で共有し、教育計画に生かしている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価が適切に活用されていると思います。 評価委員の意見が、教育委員会を通じて、各学校から教職員の方々に伝わっていることは素晴らしいと思います。 	

<項目：教育課程等の状況>		
1	学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか	3.8(3.8)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程編成委員会を組織し、校内研修や授業研究、管理職の授業参観等多様な方法を活用し、教育課程の編成、実施、評価、改善に努めている。 教育課程における課題及び改善点を年度毎に見直しを全職員が係わる体制で行い、教職員の共通理解を深めて、学校・地域の特性を活かした教育課程の編成及び実施に努めている。 教育目標の具現化に向けて教育課程を編成し、年度末に児童の実態や全国学力・学習状況調査、全国体力・運動習慣等調査の分析結果を踏まえて、全職員共通理解のもと、教育課程を見直している。 重点目標に沿って成果・課題・具体的な改善策を共有し教育課程の改善を推進した。今後は成果や課題をより深く捉えるため、教職員の資質向上を図る。 本校の教育目標をふまえ、今年度は「挑戦」というキーワードのもと教育課程が編成・実施され、職員会議等で熟議され、教職員間に共通理解が深められている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育の充実には、直接の担い手である教員の資質能力に負うところが極めて大きいと思います。一人ひとりの教職員にきめ細かい指導・助言をお願いします。 児童のやる気を引き出したり、学力アップや体力向上につながるのも、教職員の方々の資質にかかっているため、今後も期待しています。 	
2	各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動の年間指導計画や週案などが適切に作成されているか、また指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか	4.0(4.0)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 教務が中心となって全体計画・年間指導計画等を作成し、計画に沿って授業時数を配当している。また、定期的に授業時数の確保や進捗について調べ、適切に教育課程の管理を行っている。 教育課程に沿った指導計画のもと、教育効果を向上させる指導空間・指導形態・指導体制を工夫し取り組み成果を上げている。また授業時数も年度当初の計画で学期毎のまとめの時数を確保するとともに、毎月実施状況を確認し、調整を図っている。 授業時数の確保のため、計画において授業時数に余裕をもたせるよう工夫した。児童の実態と指導体制に応じ、少人数指導の充実に取り組んだ。 特別教育支援員の活用や各学級への全職員による複数指導により、基礎的基本的な内容の確実な定着・意欲の向上を図る指導体制が整備されている。 学習指導要領に示された時数を基準に年間指導計画を作成している。特に、道徳や特別活動については、学年会議の中で、十分な検討の上実施されている。 年間指導計画や週案は適切に作成され、特に授業時数の確保（進行管理）については教務部を中心に適切に行われている。 	

＜項目：授業の状況＞		
	1 体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか	3.9(3.8)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育資源の教材化をすすめ、体験的な学習や問題解決的な学習等を取り入れ、児童が学習意欲をもち主体的な学習が行える指導を進めている。 ・学年の発達段階に応じて適切な学年の教育課程（生活科・総合的な学習の時間）に体験的な学習及び問題解決的な学習を位置づけて実施している。 ・ITを活用した習熟度別学習、理科・社会科での体験的な学習や問題解決的な学習を適切に行っている。また、JA農業体験やふらの演劇祭への参加など、地域の教育力を生かした体験学習を取り入れている。 ・少人数の利点を生かし、児童生徒一人一人が十分に体験できる時間を確保し、学習意欲の向上や本物に触れることの大切さを実感させるための活動を積極的に取り入れた学習を展開している。 ・児童の興味・関心を高めるため、見通しがもてるパターン化された学習過程の工夫や、一単位時間の中で身につける力を明確にした授業展開をめざし、日常の一単位時間に、見通し、課題、まとめ、振り返りを設定した実践を行い、授業改善を目指した研修体制を確立できた。 ・各教科ともに「目標」「見通し」「まとめ」を統一した授業スタイルにより、生徒たちが、「何をするのか」「そのためにはどうするのか」「何ができるようになったか」等、意欲的に取り組んでいる。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の教育目標の達成に資するよう、体験的な学習活動の更なる充実を期待しています。 ・豊富な資源、恵まれた環境ならではの地域における体験学習や校外学習が出来ることは、とても素晴らしい事だと思うので、継続を期待したいです。 	
	2 視聴覚教材や教育機器、コンピューターや情報通信ネットワーク、電子黒板などを効果的に活用した授業が行われているか	3.9(3.7)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・iPad、実物投影機、コンピューターや電子黒板の有効活用を進め、利用方法の研修を行うなど、活用の取組が進んできている。 ・それぞれの機器の有用性を生かし、理科や数学、英語や総合的な学習の時間等の活動を中心に活用した。児童生徒が視覚的に捉えることができ、理解の深まりに繋がっている。iPadのアプリを購入し効果的な活用を実践している。 ・全教室に大型テレビを設置し、パソコンやタブレットを活用した調べ学習を取り入れた授業の実践をすることができた。 ・技術科を中心にコンピューター、情報通信ネットワークを効果的に活用した授業を行っている。また、社会科・理科や体育においてもデジタル画像を有効に活用した授業が行われている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用のために計画的な導入を進めていただきたいと思います。 	

＜項目：特別支援教育の状況＞		
	1 特別な支援を必要とする児童生徒について、個別の指導計画や個別の教育支援計画が適切に作成されているか	3. 8 (3. 7)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターを中心に計画的な支援計画が適切に作成されている。また、校内支援委員会を定期的開催し、特別な支援が必要な児童だけでなく、困り感のある児童への共通理解が図られている。 ・特別支援コーディネーターを中心に児童や保護者のニーズに合った個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、週1回の特別支援打合せの中で進捗状況を適切に確認している。また、「生徒指導事例研」において、特別な支援を必要とする児童について、定期的に全教職員で共通理解を図っている。 ・関係機関とも連携しながら、コーディネーターを中心に児童の到達目標と必要な支援を具体化した支援計画表を作成し、保護者の共通理解を得、学校と家庭で一貫した指導を行い、子どもたちの確かな変容をみることができている。 ・個別の教育支援計画や個別の指導計画を校内支援委員会で検討・作成し、実践を進めている。また、月1回の「実態交流」で特別な支援を必要とする児童について、全教職員で共通理解を図っている。 	
評価委員の意見	・特別な支援が必要とする児童生徒について適切に支援ができる体制が整っていると 思います。	

＜項目：教職員の研修の状況＞		
	1 授業研究を全教職員が行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に全校的に取り組んでいるか	3. 9 (3. 9)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が実践・研究を通して、授業改善と指導力の向上に努めている。また授業づくりガイドブックを作成し、共通した学び方や学習過程の工夫を進めている。 ・道徳を窓口に校内研究を進めた。道徳に対する認識が深まるとともに、全員が授業を公開して切磋琢磨する体制が整った。また、計画的に実技研修等を取り入れ、資質向上に努めた。 ・研究部が中心となり、授業中心の研究が実施できた。全教職員で授業公開を行い、授業改善に努めた。 ・全教職員の授業公開を実施して授業力の向上を図るとともに、教育実践研究発表会を開催して外部の方からの評価や助言をいただき、授業改善に生かした。 ・校内研修の研究主題にもとづき、全教職員がテーマを決めて、定期的に意見交流を実施することができた。また、公開研究会や研修講座等への積極的な参加を促してきた。また参加後の、還流のためのミニ研修を実施した。 	
評価委員の意見	・学力向上に授業改善は欠かせないと思います。日々の授業づくりを大切にしていきたいと思います。	

《評価領域：組織運営の状況》

＜項目：生徒指導＞		
	1 生徒指導のための教育相談が計画的に行われているか	3. 9 (3. 9)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全児童対象の教育相談及びアンケートを年3回実施するとともに、毎月月例会を開催して児童理解の共有化を図った。子どもの心に寄り添った生徒指導が組織的に行われ、効果が上がった。 ・定期的な教育相談とあわせ児童生徒からの要望があったときや、普段の児童生徒の観察の中で教師側から声をかけ教育相談を実施し、メンタル面でのサポート強化に努めた。 ・教育相談を定期的実施し、全教職員で情報交流・共通理解し、児童個々の小さな変化も見逃さないよう努めた。 ・毎月の生活目標反省（含むいじめアンケート）や教育相談、Q U 検査などを計画的に実施したり、家庭訪問を行ったりして児童理解を深めている。 ・年2回の定期相談に加え、実態に応じ、日時を問わず対応している。 	
評価委員の意見	・教育相談が適切に実施されていると思います。	

	2 スクールカウンセラーなどの外部人材が活用されているか	3.7(3.6)
各学校の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や生活面で困り感のある児童への指導において適切なアドバイスをいただいたり、保護者との教育相談等でも指導をいただいき効果が上がっている。 ・定期的にスクールカウンセラーが来校し、日常的な悩みを訴えたきた児童、保護者や教職員に対し、カウンセリングを行っている。 ・機会がある毎にスクールカウンセラーやSSWに来校いただく体制ができている。また、関係機関との連携を進めながら生徒指導を行っている。 ・スクールカウンセラーについては、生徒・保護者・担任の三者がそれぞれの立場で効果的に活用している。また、家庭に係わる問題については、こども未来課との連絡を密にしている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー等の外部人材を活用できる体制が整っていると思います。 	

＜項目：児童生徒の人格的発達の状況＞

	1 相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる児童生徒を育成するための指導を行っているか	3.8(3.8)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・温かな人間関係を基盤とした教師の指導とともに、児童会の「いじめゼロスマイル宣言」の取組を進めている。平成29年度に向けての発展した取組を志向している。 ・全教育活動を通して道徳教育を推進するとともに、教師自らが「挨拶」「時間を守る」「教室環境を整備」することで子ども手本となり、豊かな人間関係の構築に努めた。 ・道徳の時間の充実、参観日での道徳の公開授業や「私たちの道徳」を効果的に活用した道徳資料・教材を開発し、「豊かな心」の育成に努めている。 ・道徳の時間の充実や参観日での道徳の公開授業、「私たちの道徳」を効果的に活用し、道徳資料・教材の開発に努めている。また、実態交流や学級経営交流会などあらゆる機会に児童理解を図っている。 ・Z E R O運動を基盤として、思いやりをはぐくむ道徳教育を推進している。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい道徳教育に向けて研修を深めてほしいと思います。 	

＜項目：保健管理の状況＞

	1 日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が適切に実施されているか	3.8(3.8)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と養護教諭が連携して健康観察を行うとともに、保護者・担任・養護教諭で連携して児童の自己健康管理能力向上に向けて、健康便りの発行等を通じて共通理解を深めた。 ・全職員で児童生徒の健康観察、保健だよりを生かして家庭との連携に取り組んでいる。 ・毎朝の健康観察により、児童の健康状況を的確に把握するとともに、生活リズムチェックシートの活用など学級活動・保健の指導を工夫し児童の自己健康管理能力の向上を図っている。 ・養護教諭を中心に計画的に健康診断を適切に実施している。担任・副担任の日常の健康観察、保健だよりを生かした疾病予防等に取り組んでいる。 	

＜項目：安全管理＞		
1	学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか	3.8(3.8)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部を中心に、組織的に事故対応ができた。また危機管理マニュアルの見直しに努めるとともに、職員に周知し活用を図った。 適宜危機管理マニュアルの更新を行い、一人一人にファイルを渡し、朝の会での確認などにより全員が共通行動とれるようにしている。 従来のマニュアルをもとに教職員の共通理解を深めている。また消防・警察と連携した訓練を実施し、マニュアルの改善を図るとともに、食物アレルギーなど新たな内容の整備を行った。 危機管理マニュアルの改善・活用と防犯カメラの活用により、緊急事態に対応できる体制づくりと危機管理意識の向上に努めている。登下校の安全確保のため、見守り隊の活性化を図っている。 	

＜項目：進路指導(キャリア教育)の状況＞		
1	児童生徒の将来の夢や希望を育み、学ぶことや働くことの意義など適切な勤労観や職業観を育てるための指導を行っているか	3.4(3.2)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導にもキャリア教育の視点を重視し、体験的な学習や問題解決的な学習、地域の指導者の協力を得た活動、マイノートの活用検討等を進めている。 キャリア教育の全体計画に「マイノートの活用」を位置づけ、教育活動において、学習・勤労意欲を高める指導を行っている。 学年の発達段階を意識して職業体験等、進路や生き方につながるキャリア教育を実施している。また、ふるさとキャリア教育推進事業のもと小中高の連携をとおした実践を展開している。 全学年での農園活動による勤労体験や2年生での職場体験学習を実施し、計画的にキャリア教育の指導を進めている。 子どもが将来「生きがいと働きがい」を感じ、「郷土を愛する」気持ちを醸成するために全体計画とキャリアノートの見直しを図り、自己肯定感及び自己有用感を実感できる指導の更なる充実を図っている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 「本物」に触れる機会を充実させていただきたいと思います。 	

《評価領域：家庭と地域との連携協力の状況》

＜項目：学校に対する児童生徒・保護者の意見・要望等の状況＞		
1	児童生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握し、適切に対応しているか	3.7(3.6)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 日常の児童の観察や対話、参観日や懇談会等での保護者の意見、保護者アンケートなど多様な機会を活用して意見・要望の把握に努めている。 各種行事の感想や保護者アンケート結果をもとに、要望として改善できることは改善し、課題を明確にして学校経営を進めている。 保護者・児童への定期的なアンケート、学校評価、学級懇談や教育相談を通して、意見・要望を把握し、全教職員で検討し誠実に対応するよう努めている。 学校行事や参観日・PTA行事等を通して、児童生徒や保護者の意見や要望に耳を傾け、学校運営の改善に努めた。 参観日の懇談、年2回の保護者・生徒アンケートの実施、家庭訪問や電話により満足度や要望を把握し、適切な対応に努めている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 保護者等からの声に誠実に応え、良好な関係が築きあげられていると思います。 	

＜項目：学校に関する情報提供＞		
1	学校だよりや学級だよりの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか	3.9(3.9)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより（毎月発行）や学年通信（毎週発行）、父母と先生の会発行の「学校の窓」、参観日の校長講話等を通して、情報の公開を進めている。 ・学校便り・PTA総会・PTA運営委員会・おやじの会役員会・同窓会役員会・子どもネットワーク会議等のあらゆる機会を活用して経営方針を伝え学校の情報公開に努めている。 ・保護者の知りたい情報に対応するために内容を吟味し、学校便りを定期的に発行し、またFacebookを活用し学校の情報公開を行っている。 ・学級通信を保護者、学校だより等を地域に広く公表し、学校の教育方針、生徒の様子、担任の教育への情熱を適切に伝えた。 ・学校だより、学級だより、事務だより等定期的に発行されるほか、まちこみメールによるお知らせなど、適切に情報の伝達・公開が行われている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供が適切になされていると思います。 ・学校、学年からの配布は一定だが、クラス単位となると格差が出ていないか気になります。 	
2	ホームページの活用をはじめ、広く地域住民等に学校に関する情報を提供するための取組を行っているか	3.6(3.4)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや学校だよりを通して、情報の公開・共有に努めている。また、28年度から公式Facebookを開設し、児童の活動を紹介している。 ・学校便り・マニフェスト・学習の手引き等、学校の様子ができるように学校ホームページを定期的に更新している。また、あらゆる機会を活用して経営方針を伝えている。 ・Facebookを開設し、教育活動や学校の特徴、小規模校ならではの手厚い個別指導など、常に新しい学校の情報の提供に努めている。 ・ホームページの充実を図り、特に28年度はブログを更新し、学校に関する情報の提供を進めている。 ・HPを開設しスクールカレンダーや行事予定等を公開している。まちCOMIメールも活用して保護者に、不審者情報等を積極的に配信し、注意を喚起している。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの活用にあたって、一部の教職員に過度な負担にならないような配慮が必要だと思います。 	

＜項目：保護者・地域社会との連携の状況＞		
1	授業や教材の開発に地域の教育資源（人・物・自然など）を活用し、より良いものとする取組を行っているか	3.9(3.8)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・富良野自然塾、地域の指導者との協働を志向した授業実践を進めている。また、学校ビオトープなどで身近な自然の活用も志向している。 ・学年の発達段階に応じて、メセナ事業・富良野演劇祭・富良野市自然塾・読み聞かせ等を教育課程に位置づけ教育資源の効果的な活用に努めた。 ・地域の教育資源を教育課程に位置づけ、各教科・道徳・総合的な活動の時間で有効に活用している。特に富良野塾などの専門家を招いての授業は、児童の活動の意欲化、コミュニケーションの向上にも繋がり効果を上げている。併せて、教育資源の開発に向け情報の収集にも努めている。 ・富良野看護学校（職業講話）、山部太陽の里、市内各事業所（職場体験学習）等積極的に地域の教育資源を活用し、体験的な教育活動に取り組んでいる。 ・総合的な学習の時間で1年は富良野ウォーカー「職業調べ」2年は「職場体験学習」で地域で活動するなど地域の多様な人材を活用し、教育活動の充実を図っている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とのかかわりを深め、子どもたちに地域社会の活動への積極的な参加を促し、郷土を大切にしようとする気持ちを育ててほしいと思います。 	

※評価基準 4：実践が進み成果を上げている 3：実践が進んでいる
2：実践につとめている 1：努力を要する

V 教育行政評価委員会の開催について

1、教育行政評価委員会

教育行政評価委員会は、委員4名の委嘱により、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定による事務事業等の点検・評価の実施及び教育行政評価委員会設置要綱に基づく富良野市学校第三者評価を行いました。

事務事業等の点検・評価では、教育委員会から提出した資料（教育委員会の活動状況及び事務事業点検・評価46事業）について事務局より説明し、それに対する教育行政評価委員側からの質疑を交え意見交換を行いました。

学校第三者評価では、学校自己評価及び学校関係者評価の結果並びに学校第三者評価項目に対する学校自己評価結果について説明をするとともに、市立布部小中学校及び市立富良野小学校の学校訪問を行い、さらに校長会会長、副会長との意見交換を行いました。

- 1) 第1回会議 5月30日（木）
 - 教育委員会事務事業点検・評価シートの説明、質疑
 - 教育委員会の活動状況の評価説明、質疑
 - 学校関係者評価集約結果の説明、質疑

- 2) 第2回会議 7月4日（木）
 - 学校訪問～市立布部小中学校、市立富良野小学校

- 3) 第3回会議 7月26日（水）
 - 学校訪問における感想、意見交換
 - 校長会長、副会長との意見交換
 - 学校第三者評価個別評価シートの集計結果説明、質疑
 - 事務事業点検評価項目の質疑に対する説明
 - 広域連合教育委員会教育行政評価報告書について

- 4) 第4回会議 8月17日（木）
 - 学校第三者評価のまとめ及び報告書の最終確認について

2、教育行政評価委員会における意見

1) 教育委員会の活動状況について

教育をめぐる社会環境は大きく変貌しつつあり、それに伴う問題も複雑多岐にわたっています。教育委員が常に教育環境の状況把握に努めるために活発な議論をし、富良野市の教育の基本理念を確認し共有することが益々大切となっています。

平成27年4月から教育委員会制度の改革が行われ、地方教育行政における首長の責任がより明確となり、首長のもとで地方公共団体が一体となって教育施策を進める体制となりました。本市においても、首長が主宰者となり、富良野市総合教育会議を開催しています。

教育委員の学校訪問については、より一層、学校課題に対しての指導・助言を行うよう意見が出されました。

2) 「教育委員会事務事業点検・評価」について

「第5次富良野市総合計画前期基本計画」並びに「平成28年度富良野市教育行政執行方針」、「平成28年度富良野市学校教育推進の重点」、「平成28年度富良野市社会教育推進計画」に基づいて平成28年度中に実施した主な事務事業46事業と教育委員会活動状況について事務局で整理し、第1回会議にて説明いたしました。各委員からの14項目に渡る質問・意見について担当課と意見交換をし、事業効果は毎年向上し期待どおりの効果が得られているとの意見が出されました。

3) 学校教育について

教育委員会に課せられた最大の職務は学校教育の充実にありますが、市内の小中学校では「富良野市第2次学校教育中期計画」に基づいて教育活動計画等を策定し、毎年を検証・評価を経ながら教育活動を改善しています。

また、長期休業日における学習サポート事業は全学校で実施し、児童生徒の学力向上に向けて教職員一丸となり取組んでおり、今後も学力向上に向けて、学力の基本となる「読み・書き・計算」をしっかりと身につけさせ、学習意欲を高めながら子どもの個性を生かす教育を充実するとともに、確かな学力・人間性豊かな教育を推進し、「生きる力」を育む教育課程の編成、実施、評価、改善のより一層の計画的な推進が必要であります。

さらに、体力向上・運動能力向上に向けて、家庭・学校・地域・スポーツ関係団体とも連携し、日常の生活習慣・運動習慣の改善を図る必要があります。

特別支援に対する取り組みについては学校現場での努力も含めて評価のうえ、今後もさらに丁寧な取り組みが必要であります。

4) 社会教育について

社会教育は、個人の要求に応えることではなく、市民の必要課題に基づく学習内容に対応する企画立案や社会教育関係団体の育成等、生涯学習の観点に立った推進が大切です。

社会教育に関する各種事業は社会教育中期計画並びに単年度社会教育推進計画に基づき実施されており、その内容、効果度には高いものがあります。しかし、「青年塾」、「市民講座」、「ことぶき大学」などは、達成度・効果度とも評価開始以降B評価が続いているので、点検評価の課題解決に向けた取り組みが必要です。

5) 学校第三者評価について

学校第三者評価は、単に学校の格付けや教諭を評価するためのものではなく、保護者や地域住民が学校と共に子どもたちを基本に考えることにより、より良い「開かれた学校」をめざすものであります。

学校第三者評価は、学校自己評価、学校関係者評価、学校第三者評価項目の自己評価、学校訪問、校長会会長・副会長との意見交換を基に、評価項目に対する各学校の取組み状況に対し各委員の意見をまとめました。

今後も、評価項目のみならず学校運営全般に関し、自己評価、学校関係者評価、学校第三者評価の結果を、より良い「開かれた学校」のための貴重な資料として各学校において活用する必要があります。

6) 校長会会長・副会長との意見交換

富良野市第2次学校教育中期計画及び富良野市学校教育の重点方針における基本理念や重点方針を受け、各校では学校経営と学校教育において、その実現への方向性が示されていることは、大切なことであります。

また、学力と体力の向上、心の教育の充実に向けた取り組みが全校で推進され、学力向上やいじめ防止を含めた生徒指導の充実が図られています。

校長会として、本市の教育の充実・発展に向けてリーダーシップを発揮しており、特に、外国語活動の教科化に向けて教員の研修機会等の確保の必要があります。また、いじめ問題に対する教員間や学校内での報告・連絡・相談の徹底や、データ管理等の徹底については十分行われているが、より一層、今後も取り組んでいく必要があります。



市立布部小中学校マスコットキャラ
「めのべ犬」

資料：1

富良野市教育行政評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条に基づき、富良野市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する行政評価の透明性を確保するとともに、学校教育法（昭和22年法律第26号）第42条、第49条及び富良野市立学校管理規則（昭和56年教育委員会規則第2号）第6条の4の規定に基づき、富良野市立の小学校及び中学校の学校教育活動、学校運営の状況等の評価について、教育に関し学識を有する者の知見を活用するため、富良野市教育行政評価委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1)教育委員会が実施した事務事業の点検及び評価について、教育委員会に意見を述べること。
- (2)学校関係者評価について、教育委員会に意見を述べること。

(構成)

第3条 委員会は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育長が委嘱する4名をもって構成する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日の属する年度末までとする。

(運営)

第5条 委員会には、委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により定める。
- 3 委員会は、必要に応じて委員長が招集する。
- 4 委員会は、審議のために必要があるときは、関係者の出席を求め、意見を聴取するほか、資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、事務事業評価に関する事務を所管する課が処理する。

附 則

- 1 この要綱は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 最初の委員会は、第5条第3項の規定にかかわらず、教育長が招集する。

附 則

- 1 この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、公布の日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

資料：2

教育行政評価委員名簿

委員長	天 日 守	社会教育委員長
副委員長	阿 部 敏 幸	学識経験者（元学校長）
委員	木 戸 秀 子	富良野市スポーツ推進委員会会長
委員	中 田 昭 子	社会教育団体役員

資料：3

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

〔昭和 31 年 6 月 30 日法律第 162 号〕

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

資料：4**平成28年度 教育行政執行方針**

平成28年第1回富良野市議会定例会の開会にあたり、教育行政に関する執行方針を申し上げ、市議会議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を頂き、地域に根ざした実効性のある教育施策を進めてまいりたいと存じます。

1. はじめに

人口減少・少子高齢社会の到来、グローバル化など、我が国は社会情勢の急激な変化に直面しており、人々の求める豊かさは物質的なものから精神的なものへと関心が移り、価値観の多様化が進んでいます。

こうした変化の激しい社会に対応できるよう、「第5次富良野市総合計画後期基本計画」を基本として、知育・徳育・体育の調和のとれた児童生徒の着実な育成をめざし、「すべては子どもたちのために」を合言葉に、子どもたちの無限の可能性を伸ばす学校教育の充実に努めるとともに、市民が心身ともに健康で生きがいのある充実した人生を送ることができ、学んだ成果を適切に生かすことのできる環境づくりを推進してまいります。

2. 学校教育について

学校教育につきましては、「富良野市第2次学校教育中期計画」にもとづき、自立と共生の未来を拓く、心豊かでたくましい人を育むことを基本理念に、子どもたちが未来を拓き変化の激しい時代をたくましく生き抜く「生きる力」を

地域全体で育むために、学びの大地に大きく育つ三本の木としての『富良野市 ZERO運動』を推進し、教育実践の輪を広げてまいります。

1) 主体的な学びを育てる 知育の木

学力向上につきましては、全国学力・学習状況調査に加えて新たに小学生を対象とした標準学力検査を実施し、その結果の検証を通して、学習指導方法の工夫改善や学習環境づくりの推進に取り組んでまいります。

体力の向上につきましては、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえ、学校における体育・健康に関する指導の改善及び家庭における規則正しい生活習慣の定着に努めてまいります。

本市の地域資源を生かした教育につきましては、東京大学北海道演習林との交流に関する協定により、恵まれた森林資源を活用した森林環境教育に向けて、関係諸機関や市民団体との連携のもと、森林学習プログラムの作成と指導者養成を図ってまいります。

国際理解教育につきましては、引き続き外国語指導助手4名を配置しながら英語力の向上に努めるなど、英語が話せるふらのっ子をめざした外国語活動の充実を図ってまいります。

特別支援教育につきましては、一人一人のニーズに応えるために保育所・幼稚園・各学校間の円滑な引き継ぎに向けて保健・医療・福祉との連携を図るとともに、学校や保護者に対する相談、支援体制の充実に努めてまいります。

学校図書につきましては、学習に必要な図書の整備とともに、市立図書館との連携や学校支援ボランティアの協力による読み聞かせ会の実施など、児童生徒の読書活動を地域ぐるみで推進してまいります。

2) 自主自律の心を育てる 情意の木

いじめZEROの推進につきましては、「いじめを しない させない ゆるさない」を合言葉に、いじめの未然防止、早期発見・迅速な対応と、その根絶に向けて学校・家庭・地域の連携により取り組んでまいります。

心の教育につきましては、学校教育アドバイザー及び子どもと親の相談員、スクールカウンセラーを引き続き配置しながら、心の問題をケアできる体制を整備してまいります。

道徳教育につきましては、富良野にゆかりのある講師陣による心に響く道徳教育を引き続き推進するとともに、豊かな情操や生命倫理、規範意識の醸成に努めてまいります。

キャリア教育につきましては、望ましい職業観や勤労観を身に付け、主体的に進路を選択する力の充実を図るとともに、小中高一貫した取り組みについて研究してまいります。

情報教育につきましては、関係機関と連携しながら情報モラル教育を実施するとともに、タブレット端末やデジタル教科書などを活用した学習方法の工夫、充実に努めてまいります。

3) 恵まれた環境と食で育てる 健康の木

健康教育につきましては、関係機関と連携しながら計画的な性教育、薬物乱用防止教育を推進するとともに、校内における健康相談体制の充実を図ってまいります。

また、児童生徒の歯の健康づくりに向けて、全小中学校でのフッ化物洗口を継続して取り組んでまいります。

食育につきましては、栄養教諭と養護教諭が連携を図りながら子どもの発達段階に応じて実践するとともに、学校・家庭・地域と連携した「早寝・早起き・朝ごはん・みんなそろって晩ごはん」運動を引き続き展開してまいります。

危機管理につきましては、学校内外での安全な生活環境づくりに努めるとともに、学校における危機管理マニュアルに基づき、防犯訓練及び災害発生時の実技訓練などを引き続き実施してまいります。

学校教育施設の整備につきましては、市立鳥沼小学校屋内運動場屋根外壁塗装工事、富良野西中学校グラウンドフェンス設置整備などを実施し、児童生徒の教育環境の向上に配慮した安全・安心な学校施設の整備を進めてまいります。

4) 原点を見つめ未来への輪を広げる 学びの大地

地域とともにある学校づくりをめざして、学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることのできるコミュニティ・スクールの導入について検討してまいります。

また、児童生徒のコミュニケーション能力の向上に向けて、新たに演劇手法を取り入れたワークショップを小中学校で実施してまいります。

さらに、小学校就学支援に向けた第3子以降多子世帯就学助成制度を創設するとともに、就学援助及び育英基金貸付事業の拡充により教育の機会均等を推進してまいります。

3. 社会教育について

社会教育につきましては、「富良野市第7次社会教育中期計画」にもとづき、健やかな心身を育み、やさしさと生きがいを実感できる社会教育の推進を基本目標として、市民が自主的な学習活動に取り組むことができ、その成果を適切に生かすことのできる生涯学習社会をめざしてまいります。

1) 家庭教育

家庭教育につきましては、子どもたちの健やかな育ちの基盤である家庭の教育力を高めるために、家庭教育講演会・セミナーの開催や子どもの発達段階に合わせた家庭教育ハンドブックを作成、活用してまいります。

また、インターネットやスマートフォンなどによるトラブル防止に関する情報提供を行うとともに、家庭でのルールづくりや危機管理の徹底についての啓発活動を継続してまいります。

2) 青少年教育

少年教育につきましては、放課後児童対策事業の充実に向けて学童保育センターの対象年齢を拡充するとともに、放課後子ども教室と学童保育センターの連携を図ってまいります。

また、学校支援ボランティアや地域の教育力を活用した学社融合推進事業などを実施するとともに、少年の主張大会及び子ども未来づくりフォーラムを引

き続き開催し、地域づくりの実践を通じた人材育成に取り組み、さらに、関係機関と連携・協力しながら、青少年健全育成に取り組んでまいります。

青年教育につきましては、青年塾を引き続き開設し、青年同士の出会いと交流の場とともに、学習機会の提供と社会参加や地域活動への参画を通じた自主的な実践活動を支援してまいります。

3) 成人、高齢者教育

成人、高齢者教育につきましては、多様化する市民ニーズやグローバル化に対応した学習活動を支援するとともに、ことぶき大学の開設を通し、高齢者の知識・経験を生かした地域活動やボランティア活動などの社会参加活動を推進してまいります。

4) 芸術文化振興及びスポーツの推進

芸術文化の振興につきましては、鑑賞機会の充実や市民総合文化祭などを通じた自主的な芸術文化活動を支援するとともに、ふらの演劇祭の開催など演劇文化の育成を図ってまいります。

また、富良野文化会館にエレベーターを設置し、より利用しやすい環境を整備するとともに、富良野演劇工場の舞台照明設備を改修してまいります。

スポーツの推進につきましては、生涯スポーツの推進を図るとともに、市制施行50周年を記念して「プロ野球イースタンリーグ」の公式戦を招致するなど、より身近にスポーツに親しむことができる環境づくりを進めてまいります。

また、競技スポーツと人材育成につきましては、NPO法人ふらの体育協会を中心として各種スポーツの競技力向上をめざし、陸上競技場第4種公認取得（更

新)に向け整備を行うとともに、指導者養成やアスリートの育成・派遣・強化に努めてまいります。

なお、文化・スポーツ行政を総合的、効果的に推進するため行政組織の再編を行い、平成28年度より市長部局で事務の管理及び執行を予定しておりますが、教育委員会といたしましては市長部局と連携を図りながら各種施策について支援してまいります。

5) 文化財保護

文化財の保護につきましては、市民共有の財産として保護するとともに、教育的な活用を推進し、郷土の歴史、文化、自然、風土などについて理解を深め、郷土愛を育ててまいります。

また、市指定文化財の富良野獅子舞をはじめ山部獅子舞、富良野弥栄太鼓などの郷土芸能を継承するために、指導者・後継者の育成や郷土芸能保存団体の活動支援に努めてまいります。

6) 読書推進

読書活動の推進につきましては、市民参加による親しまれる図書館づくりをめざして、市民の多様なニーズに適応した図書館資料の充実を図るため幅広い情報収集・提供に努めるとともに、図書館利用サークルやボランティアと連携した企画展・作品展・講演会など多彩な事業の実施による交流の場の創出を図ってまいります。

また、乳幼児のいる世帯の子育て支援として、図書館内に授乳室を設置してまいります。

子どもの読書推進につきましては、利用者カードを0歳児から発行するとともに、乳幼児期からの読書活動の動機づけに効果があるブックスタートを拡充し、1歳6ヶ月時にも実施してまいります。

また、学校における読書活動の支援や子どもの読書推進ボランティアとの連携による読書環境の整備を図ってまいります。

以上、平成28年度の教育行政執行方針について申し上げましたが、執行にあたりましては、事務の管理及び執行状況の点検・評価に基づき、より一層開かれた教育行政をめざしながら効果的に推進してまいりますので、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

資料：5

平成 28 年度学校教育重点事項

～すべては子どもたちのために～

平成 28 年 4 月 1 日

富良野市教育委員会

＜基本理念＞

「自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む」

(富良野市第 2 次学校教育中期計画)

＜重点方針＞

教育の原点である知育・徳育・体育の調和のとれた子ども達の着実な育成を基本に据え、「すべては子どもたちのために」を合言葉に、子ども達の無限の可能性を伸ばす教育の充実に努める。

また、子どもたちが未来を拓き変化の激しい時代をたくましく生き抜く「生きる力」を地域全体で育むために、学びの大地に大きく育つ三本の木としての『富良野市 Z E R O 運動』を推進し、教育実践の輪を広げる。

＜重点課題＞

- 1 「富良野市いじめ Z E R O 推進条例」に基づくいじめの未然防止と早期発見・迅速な対応を図る。
- 2 確かな学力・体力向上をめざし、授業改善及び授業公開と家庭学習を含めた規則正しい生活習慣の定着を図る。
- 3 森林学習プログラムをモデル校にて試行実践する。
- 4 コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）導入に向けて検討する。
- 5 「子どもたちのための食育ガイドライン」を見直し、食育を推進する。

<重点項目>

1、主体的な学びを育てる 知育の木

1) 学力向上について

- ・全国学力学習状況調査に加えて新たに小学生を対象とした標準学力検査を実施し、調査結果を詳細に把握・分析し、学習指導方法の工夫改善や学習環境づくりに取り組む。
- ・地域の方々や学校内外の教職員に対する「授業公開」「研究授業」を積極的に進め、「地域に開かれた学校づくり」、「教員の授業研究、授業改善」に向け取り組む。(年2回程度の地域授業公開の実施)

2) 体力向上について

- ・全国体力運動能力、運動習慣等の結果を踏まえ、体育・健康に関する指導の改善及び家庭における規則正しい生活習慣の定着に努める。

3) 環境教育

- ・東大演習林の恵まれた森林資源を活用した森林環境教育に向けて、森林学習プログラムを作成するとともに、指導者の養成を図る。
- ・本年度はモデル校(山部小学校、樹海小学校、山部中学校)にて森林学習プログラムを試行実践する。
- ・「富良野自然塾」などの活用により、本市における自然環境を生かし、様々な体験活動を通して、自然に対する豊かな感受性や生命を尊重する精神、環境に対する関心などを培う教育の充実を図る。

4) 外国語活動について

- ・外国語指導助手(A L T)を小中学校へ派遣するとともに、外国語活動推進委員会において、推進体制や指導形態の工夫改善に向けて小中連携による外国語活動を推進する。
- ・外国語活動を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や能力の育成に向け、「英語が話せるふらのっ子」をめざした取り組みを推進する。

取組例：「放課後英語ランド」、「朝の英語活動」、「イングリッシュキャンプ」、「スクールバス乗車時を活用した英語活動」等

5) 特別支援教育について

- ・幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校等への円滑な引き継ぎ及び保健医療福祉との連携やコーディネートを図るべく、特別支援教育アドバイザーを引き続き配置し、学校や保護者に対する相談、支援体制の充実を図る。
- ・一人ひとりのニーズに応じた教育を推進するために特別支援教育支援員を19名配置し、校内における支援の充実を図る。

配置校 富良野小学校 6名、東小学校 5名、扇山小学校 4名

鳥沼小学校、山部小学校、富良野東中学校、富良野西中学校 各1名

- ・就学前児童への子どもの成長記録ファイル「すくらむ ふらの」を活用し、学校間の引き継ぎ等における活用を推進する。

6) 学校における読書の推進について

- ・市立図書館と各学校との連携や学校支援ボランティアの協力による読み聞かせ会の実施など、児童生徒の読書活動を地域ぐるみで推進する。
- ・ブックトラック事業、ブックフェスティバル事業の推進を図る。

2、自主自律の心を育てる 情意の木

1) いじめ ZERO（ゼロ）の推進について

- ・「富良野市いじめZERO（ゼロ）推進条例」に基づくいじめの未然防止、早期発見・迅速な対応と、その根絶に向けて学校・家庭・地域の連携を図る。
- ・いじめZERO（ゼロ）に向けて、児童生徒から標語の募集を行うとともに、いじめ防止に向けた研修会を開催する。

2) 心の教育について

- ・学校教育アドバイザー、適応指導教室指導員（社会福祉士有資格者）及び子どもと親の相談員（臨床心理士有資格者）、スクールカウンセラー（臨床心理士有資格者）を引き続き配置し、子どもたちの心の問題をケアできる体制づくりを図る。

※子どもと親の相談員、スクールカウンセラーの配置について

- 1) 富良野西中学校、扇山小学校 …… 松田 剛先生を配置
- 2) 富良野東中学校、富良野小学校、東小学校 …… 石黒三知子先生を配置
- 3) 必要に応じて他校においても対応可能

3) 道徳教育について

- ・富良野にゆかりのある講師陣による心に響く道徳教育を推進し、豊かな情操や生命倫理、規範意識の醸成を図る。

4) キャリア教育について

- ・望ましい職業観や勤労観を身に付け、主体的に進路を選択する力の充実を図る。
- ・各学校が、各教科及び各種事業をキャリア教育の視点でも捉え、有効活用を図る。
- ・小中高一貫ふるさとキャリア教育研究校に道教委より富良野緑峰高等学校、富良野西中学校、富良野小学校が指定されており、研究指定校への支援を行う。

5) 情報教育について

- ・各学校のタブレット端末、電子黒板、デジタル教科書などを活用した学習方法の工夫、充実に努める。
- ・学校、家庭、PTA、関係機関団体との連携により情報モラル教育を推進する。
- ・家庭でのルールづくりや危機管理の徹底を図るとともに、家族の約束7か条の推進とネット被害から子どもたちを守る取り組みを進める。

3、恵まれた環境と食で育てる 健康の木

1) 健康教育について

- ・計画的な性教育、薬物乱用防止教育を推進するとともに、校内における健康相談体制の充実を図る。
- ・児童生徒の歯の健康づくりに向けて、全小中学校でフッ化物洗口を実施する。

2) 食育について

- ・「子どもたちのための食育ガイドライン」の見直しを行うとともに、子どもの発達段階に応じた食育を栄養教諭と養護教諭の連携により実践する。
- ・学校給食の「食べ残しゼロ」運動を推進するとともに、基本的な生活習慣である「早寝・早起き・朝ごはん、みんなそろって晩ごはん」運動をPTAと連携し推進する。

3) 防災教育・危機管理について

- ・自然災害、事故、事件等に対する危機管理体制の徹底を図るとともに、防犯訓練及び災害発生時の実技訓練を実施し、児童生徒の安全対策の充実を図る。

- ・児童虐待問題は、こども未来課や児童相談所、警察署等関係機関との連携を図り対応する。

4、原点を見つめ未来への輪を広げる 学びの大地

1) コミュニティ・スクールの導入について

- ・地域とともにある学校づくりをめざして、学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることのできるコミュニティ・スクールの導入について検討します。
- ・教職員及び保護者、地域を対象としたコミュニティ・スクール研修会を開催します。

2) コミュニケーション能力の向上について

- ・児童生徒のコミュニケーション能力の向上に向けて、演劇手法を取り入れたワークショップを小中学校で実施します。
- ・「文化芸術による子どもの育成事業」（文化庁事業）の継続活用により、演劇活動や演劇鑑賞を通して児童生徒の自主性やコミュニケーション能力の向上と個性の創出などを図ります。
- ・教職員を対象に演劇的手法を活用した教職員研修の継続実施と充実を図り、コミュニケーション能力の育成に向けた教育を推進する、

平成 28 年度
富良野市教育行政評価報告書
教育委員会事務事業点検・評価
学 校 第 三 者 評 価

発行：平成 29 年 8 月

富 良 野 市 教 育 委 員 会
